



TITLE:

日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究 (承前)

AUTHOR(S):

千葉, 忠恕

CITATION:

千葉, 忠恕. 日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究 (承前). 日本外科宝函 1929, 6(6): 1495-1544

ISSUE DATE:

1929-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200415>

RIGHT:

日本人骨盤内臓器ノ局所解剖學的研究 (承前)

The Examination About The Topographical Anatomy

Of The Pelvic Viscera In Japanese.

By

Dr. C. CHIBA.

From the Anatomy Institute of the Kyoto Imperial University (Director: Prof. Dr. B. Adachi)

京都帝國大學醫學部解剖學教室(足立教授指導)

大學院學生 醫學士 千葉 忠 恕

(へ)、内尿道口ト耻骨聯合ノ上縁トノ距離

成人二六例(女一九例、男七例)ニ於テ此ノ距離ハ男ニテハ四二乃至七二耗ニシテ平均五三・二耗、女ニテハ三四乃至六五耗ニシテ平均五二・一耗ナリ。Disce ニヨレバ男ニテハ六〇耗トシ、Cunningham ニヨレバ六八耗トセリ。膀胱ノ虚盈状態ニ關シテハ大ナル影響ハ見ズ。(第七十四表參照)

初生兒ニ就テ見レバ第七十五表ノ如シ。初生兒ニテ Disce ハ六乃至一〇耗、小兒ニテハ二〇耗トセリ。

(ト)、内尿道口ト耻骨後面トノ最近距離

成人二六例(女一九例、男七例)ニ於テ、男ニテハ二〇乃至三〇耗、平均二三・二耗ニシテ、女ニテハ一一乃至二八耗、平均一九・九耗ナリ。Waldeyer ハ此ノ距離ヲ二〇耗(男)、一〇乃至一五耗(女)ト記載セリ。膀胱ノ虚盈ニヨリテ此ノ距離ニ大差アルヲ見ズ。(第七十六表參照)

第七十三表 〔附表(十)参照〕

直腸	膀胱	女(19例)平均(最小—最大)		男(5例) 平均(最小—最大)	
虚	虚	5 例	平均 21.8(15—33)(耗)	2 例	平均 31.5(25—34)(耗)
	盈	4 例	平均 21.8(20—23)	3 例	平均 29.0(27—36)

第七十四表 〔附表(十)参照〕

直腸	膀胱	女 (9例)(最小—最大)		男 (5例)(最小—最大)	
虚	虚	5 例	平均 54.8(50—60)耗	2 例	平均 54.0(50—58)
	盈	4 例	平均 56.2(41—63)耗	3 例	平均 66.7(58—72)

第七十五表 〔附表(十)参照〕

	初 生 兒				小 兒
膀胱	女 (9 例)		男 (10例)		女 (2 例)
虚	8 例	平均 10.9(耗)	8 例	平均 8.3(耗)	17, 30
盈	1 例	12	2 例	15, 18	

第七十六表 〔附表(十)参照〕

直腸	膀胱	女 (9 例) (耗)		男 (5 例) (耗)	
虚	虚	5 例	平均 19.8(15—26)(耗)	2 例	平均 23.5(20—27)
	盈	4 例	平均 19.5(16—22)	3 例	平均 27.3(22—30)

第七十七表 〔附表(十)参照〕

直腸	膀胱	女 (9 例) (耗)		男 (5 例) (耗)	
虚	虚	5 例	平均 20.2 (9—32)	2 例	平均 30(24—36)
	盈	4 例	平均 19.0(16—21)	3 例	平均 26.7(25—28)

(チ)、内尿道口ト耻骨聯合ノ上下縁ノ中點ヲ結合セル直線トノ垂線距離
 成人二六例(女一九例、男七例)ニ就テ、男ニテハ二四乃至三六耗、平均二八・七耗、女ニテハ九乃至三三耗、平均二

1. 六耗ナリ。Garson ハ男ニテハ二三乃至三七耗、平均三〇耗トセリ。膀胱ノ虚盈ニ就テ見ルニ第七十七表ノ如シ。
Garson ニヨレバ此ノ距離ハ膀胱ノ虚盈ニハ影響セズト云ヘリ。

以上(ホ)(ヘ)(ト)(チ)ニ於ケル各距離ニ就テ見ルニ男女ニヨル差違ハ男ノ例數少キヲ以テ確實ナル判斷ヲ下シ得ザルモ數字上ニテハ一般ニ男ニ於ケルモノハ女ニ於ケルモノヨリモ大ナリ。

二、膀胱頂ノ位置

(イ)膀胱頂ト骨盤入口前後徑トノ垂線距離

成人二五例(女一八例、男七例)ニ就テ見ルニ膀胱頂ノ位置ハ其盈状態ニ於テハ該徑線ノ上方三五耗ニ達スルモノアレドモ、虚状態ニアリテハ該徑線ヨリ下方ニ向ツテ二七耗ノ點ニ達スルニ過ギズ。然シ之レヲ以テ膀胱ノ虚盈ニヨリテ膀胱頂ノ位置ニ大差アルコトヲ知ル。然シ乍ラ女子膀胱ニシテ虚ナルニモ係ハラズ、該徑線ノ上方一二耗ノ點ニ達スルモノ(No. 5)稀ニ存在ス。斯カル異型膀胱ヲ除ケバ直腸並ニ膀胱ガ虚ナルモノ五例ニ於テ凡テ該徑線以下ニ其ノ頂ヲ有ス。然ルニ膀胱ガ虚ニシテ直腸ガ盈ナルモノ一〇例ニ於テハ、膀胱頂ガ該徑線上ニアルモノ一例、該徑線ヨリ上方ニアルモノ三例該徑線ヨリ以下ニアルモノ六例ニシテ、直腸ノ虚盈ガ膀胱頂ノ位置ニ對シテ多少ノ影響ヲ有スルモノナルコトヲ知ル。男女ニヨリテ膀胱頂ノ位置ヲ異ニスルカ否カラ見ルニ特記スベキ點ヲ見出ス能ハズ。(第七十八表参照)

歐人ノ記載ヲ見ルニ Dice ニヨレバ膀胱ガ虚ニシテ收縮セルモノニテハ頂ハ骨盤入口前後徑ヨリ一八乃至二三耗下方ニアリ、又女子ニテハ盈時ニテモ其頂ハ該徑線ヲ越ユルコトナシト云ヘリ。Walbyer モ亦女子ニテハ盈時ニ於テモ頂ハ本徑線ヲ越ヘズト云ヒ、又男子ニテモ其頂ガ耻骨上方五〇耗ニ達セルヲ見タリトセリ。又然シ男子ニテモ膀胱長徑ガ骨盤入口前後徑ニ平行ニ近キ如キ場合、或ハ直腸虚ナル場合ハ膀胱盈ナリトモ該徑線以下ニ其頂ヲ有スト云ヘリ。然レドモ Schlotf ニヨレバ男子ニテハ頂ハ該徑線ニ對シテ二二耗下方乃至六〇耗上方ニアリト云ヘリ。予ガ調査セル處ニヨレバ歐人記載ト異リテ女子膀胱ニテモ其一八例中半數ハ頂ガ該徑線ノ上方ニアルヲ見タリ、是等ハ只一例(No. 5)ノ虚膀胱

第七十八表 〔附表(十)参照〕 (尺度ハ耗)

	成人女 (18例)		成人男 (7例)	
	例数	(最小—最大) (No.) 耗	例数	(最小—最大) (No.) 耗
勝 肱(虚) 直 腸(虚)	4	1(10—27)下……3例 (No. 3. 6. 8) 12上……1例 (No. 5)	2	(3—8)下(No. 43. 45)
勝 肱(盈) 直 腸(盈)	1	15上	1	35上
勝 肱(虚) 直 腸(盈)	9	線上……1例(No. 2) (11—28)下……4例 (No. 14. 25. 26. 27) (2—18)上……4例 (No. 7. 11. 20. 23)	1	5下 (No. 46)
勝 肱(盈) 直 腸(虚)	4	8下……1例 (No. 4) (9—13)上……3例 (No. 12. 13. 15)	3	線上……1例(No. 44) (6—28)上……2例 (No. 41. 42)
備考 上トセルハ勝肱頂ガ骨盤入口前後徑ヨリモ上方ニアル時頂ヨリ該徑 線ニ下セル垂線距離ノ長サヲ示ス 下トセルハ頂ガ徑線ヨリ以下ニアル場合ニ於ケルモノトス				

第七十九表 〔附表(十)参照〕

	女 (耗)		男 (耗)	
虚	8 例	平均 21.0(10—32)	8 例	平均 23.3(13—30)
盈	1 例	18	2 例	平均 18.5(12—25)

(扁平ニ近キ三角體形ノモノ)ヲ除キテハ凡テ勝肱又ハ直腸ガ盈ナル場合ナリ。Waldyerニヨレバ直腸ニ護謨球ヲ插入シテ之レヲ膨滿セシムル時ハ勝肱頂ハ耻骨ノ上方四〇乃至七〇耗ニ達スト云ヘリ。Garniモ亦直腸ノ影響ニヨリ勝肱頂ノ位置ハ高下スト云ヘリ。斯ク直腸影響ノ關係アルコトハ予ノ場合ニモ認メラル、處ニシテ、L. 及び G. ガ勝肱頂ノ位置ハ勝肱ノ虚盈ニ關スルモ、直腸ノ虚盈ニ關スルモノニアラズト云ヘル處ニ反ス。

(ロ) 初生兒ニ於ケル勝肱頂ヨリ耻骨聯合上緣迄ノ直線距離

初生兒勝肱頂ハ成人ニ於ケルモノニ反シ其ノ盈時ニハ却ツテ下降ス。(第

七十九表参照) 蓋シ初生兒ニ於テハ内臍韌帶ガ猶強クシテ、勝肱頂ハ前腹壁ニ添フテ臍方面ニ強ク牽引セラル、狀態ニアリ。故ニ勝肱後壁ノ膨隆ト共ニ尖頂ハ下方ニ引キ下ゲラル、モ、虚收縮時ニハ再ビ本來ノ位置ニ引キ上ゲラル、ニヨルナラン。成人ニテハ普通ハ虚時ニハ勝肱ハ骨盤底ニ下ルニ反シ、初生兒ニテハ前腹壁乃至耻骨後面ニ牽引セラル、狀態ニ

アリ、之レ兩者ノ異ル點トス。Kolliker曰ク初生兒及ビ小兒ニテハ扁平膀胱ニ近キハ尿管ノ牽引ニヨルナラント。Hyrtl曰ク膀胱虛時ニ於テ其ノ粘膜ノ走向ハ頂ト内尿道口ノ方向ニ向フ。之レ收縮時上下ノ兩方向ニ牽引セラル、ニヨルガ爲メナリト。予モ小兒型膀胱トモ云フベキ成人女二例 (No. 5, 11)ノ虚膀胱ニ於テ其ノ粘膜皺襞ガ頂ニ向ツテ著明ニ縱走セルヲ見タリ。

三、初生兒及ビ小兒ノ膀胱ハ骨盤入口前後徑ニヨリテ上下如何ナル比ニ分タルカ

内尿道口ト膀胱頂トノ結合線即チ膀胱長軸ノ骨盤入口前後徑ノ上下ニアル部分ノ長サヲ比較スルニ以下ノ如シ。初生兒(一九例)小兒(一例)六ヶ月胎兒(一例)ニ就テ見ルニ上方ノ部分ハ四乃至二七耗、其平均一三・八耗ニシテ下方ノ部分ハ七乃至一七耗、其平均一三・一耗トス。即チ平均價ヨリセバ膀胱長軸ハ骨盤入口前後徑ニヨリテ等分ニ上下ニ分タル、ヲ知ル。之レヲ個々ノ例ニ就テ見ルニ左ノ如クニシテ上方ニアル部ガ下方ニアル部分ニ比シテ大ナルモノ寧ロ多シ。

上方ノ部長キモノ 一一例 (No. 28, 54, 53, 56, 59, 61, 63, 47, 51, 52, 57, 62)

下方ノ部長キモノ 九例 (No. 48, 31, 49, 50, 55, 58, 60, 64, 65)

四、初生兒ノ膀胱頂ハ耻骨及ビ臍間ノ何レノ部分ニアリヤ

初生兒九例ニ就テ見ルニ第八十表ニ見ルガ如クニシテ之レヲ大別スレバ左ノ如シ。

頂ガ耻骨並ニ臍間ノ中央ニアルモノ 三例

頂ガ其ノ中央ニ達セザルモノ 六例

又中央ニ達セザルモノニ於テ臍及ビ頂間ノ距離ニ對スル頂並ニ耻骨上緣間ノ距離ノ比ハ一・二對一、乃至四・一對一トス。文献ニ徵スルニ Takahasi 曰ク初生兒ノ尿管起始部ハ臍並ニ耻骨間ノ中央又ハ上三分ノ一ト下三分ノ二ノ界ニ達スト、Disse ニヨレバ初生兒(男)ニテハ之レガ臍並ニ耻骨間ノ中央ニアリトセリ。Mettenheimer (Zit nach Waldeyer) ニヨレバ之レガ臍並ニ耻骨間ノ下三分ノ二ヲ占ムト云ヘリ。

第八十表 [附表(十)参照]

No.	臍及膀胱頂間(距離)	膀胱頂及耻骨上緣間	兩者ノ比(上:下)
47	55耗	15耗	3.7 : 1
48	40	17	2.4 : 1
49	15	15	1 : 1
50	20	15	1.3 : 1
57	15	15	1 : 1
59	20	20	1 : 1
60	40	10	4 : 1
63	37	25	1.5 : 1
64	30	25	1.2 : 1

第八十一表

成人女(11例)	No.	例数
右 (+) 左 (-)	2	1
右 } (+) 左 }	11(2-3條) 7(4-5條) 25	3
中央 } 著明 左右 }	20 25	2
中央 } (+) 左右 } (-)	9 20(巾4耗)	2
全ク缺除	10 29	2
左 著明	13	1

ツテ走ルコトアリ。初生兒ニテハ之レニ達スルヲ見ル。成人ニテハ普通ハ膀胱ノ側方ニ向ツテ走ルコト僅カニシテ消失シ、其ノ數モ發達程度種々ニシテ數條ヲ有スルコトアリ。又片側ノミニ存スルコトアリ。而シテ一般ニ云フ時ハ男ニ於テハ女ニ於ケルヨリモ著シクシテ且ツ常ニ存スト云ヘリ。予ノ例ニ於テハ凡テ女子ノミニ就テナルガ全ク缺如セルモノヲ

二例ニ見タリ。

二、膀胱頂ノ腹膜被覆狀態

膀胱上窪ニ於テ腹膜ガ膀胱頂ヲ越ヘテ前壁ヲモ被包スルコトアリ。斯カル場合ニ於テハ内臍韌帶ハ頂ヨリ出デテ腹膜下ヲ走リ膀胱壁ニ添フテ、其ノ前壁ノ一部ヲ膀胱上窪ニ向ツテ下リ、以テ腹膜ト共ニ前腹壁ニ移行ス。斯カルモノ六例(成人女子一七例中)ニ認メタリ。此ノ前壁ノ腹膜被包範圍ハ正中線ニ於テ一〇乃至三五耗平均一六耗トス。(但シ膀胱盈三例、虚

第九項 膀胱橫皺襞及ビ膀胱頂部ノ腹膜被覆狀態

一、膀胱橫皺襞

膀胱橫皺襞ハ之レヲ調査シタル成人女一一例ニ就テ見ルニ第八十表ニ如クニシテ數ハ四乃至五條、幅ハ著シキモノ四耗ヲ算ス。Waldayer ニヨレバ膀胱橫皺襞ハ膀胱ガ虚ノ時ハ勿論ナルガ、可成リ盈狀態ノ時ニモ之レヲ認ムト云ヘリ。又多ク正中線ノ左右ニ相對的ニ在リト附言セリ。Nagel ニヨレバ此ノ橫皺襞ノ幅ハ三乃至五耗ニシテ甚ダシキ時ハ一二耗ニ達スト云ヘリ。又皺襞ノ左右兩端ガ前方又ハ後方ニ走ルト附言セリ。E. Dixon ニヨレバ此皺襞ハ膀胱虚時ニ於テハ骨盤側壁ニ至リテ更ニ内鼠蹊輪ノ方向ニ向

附表 (十)

番 號	(イ) 内尿道口 前距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ロ) 内尿道口 後距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ハ) (イ)スル 對(ロ)ノ 比率 (イ):(ロ)	(ニ) 内尿道口 後距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ホ) 内尿道口 前距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ヘ) 内尿道口 後距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ト) 内尿道口 前距離 トノ骨盤 入 (耗)	(チ) 内尿道口 後距離 トノ骨盤 入 (耗)	(リ) 内尿道口 前距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ヌ) 内尿道口 後距離 トノ骨盤 入 (耗)	(ル) 内尿道口 前距離 トノ骨盤 入 (耗)
2	45	18	2.5 : 1	bβ下 ₃	24	51	20	24	線上	—	—
3	45	21	2.1 : 1	bβ中央	33	50	26	32	10下	—	—
4	57	3下	—	d	20	60	20	16	8下	—	—
5	52	3	17.3 : 1	βc下 ₃	20	55	20	19	12上	—	—
6	50	7	7.1 : 1	βc中央	25	55	23	25	27下	—	—
7	33	25	1.3 : 1	b	27	38	20	23	9上	—	—
8	51	3	1.7 : 1	βc下 ₃	16	54	15	16	21下	—	—
9	—	—	—	—	15	60	15	9	—	—	—
10	62	2下	—	cd中央	22	63	20	20	10上	—	—
11	27	25	1.1 : 1	a b	28	34	11	18	2上	—	—
13	60	5下	—	cd中央	22	61	22	17	9上	—	—
14	55	7	7.9 : 1	βc中央	25	65	26	20	28下	—	—
15	40	18	2.2 : 1	bβ下 ₃	23	41	16	21	13上	—	—
18	40	17	2.2 : 1	—	25	48	20	24	15上	—	—
20	44	15	3.1 : 1	β上	24	50	19	23	18上	—	—
23	37	—	—	—	30	50	28	28	5上	—	—
25	50	7	7.1 : 1	βc中央	25	53	24	27	27下	—	—
26	40	16	2.5 : 1	β上	20	47	14	19	11下	—	—
27	44	14	3.1 : 1	β下	28	53	24	27	22下	—	—
40	42	25	1.7 : 1	bβ	30	50	20	28	35上	—	—
41	52	12	4.3 : 1	β	27	58	22	27	6上	—	—
42	70	3下	—	cd	30	73	30	25	28上	—	—
43	45	24	1.9 : 1	bβ	38	50	27	36	3下	—	—
44	65	3下	—	d	30	70	30	28	線上	—	—
45	47	14	3.4 : 1	β	25	58	20	24	8下	—	—
46	36	26	1.4 : 1	b	35	42	20	30	5下	—	—

31	15	10	1.5 : 1	bβ中央	13	17	4	10	4上	—	4	17
32	30	12	2.5 : 1	β上	20	30	18	16	2上	—	—	—
28	10	7	1.4 : 1	bβ中央	9	10	3	6	—	24	16	11
53	9	10	1 : 1.1	b	13	12	3	8	—	32	25	12
54	10	6	1.7 : 1	bβ下 ₃	8	9	3	6	—	22	18	11
55	9	10	1 : 1.1	b	12	11	3	9	—	21	20	15
56	6	12	1 : 2	αb中央	14	9	6	9	—	26	23	8
59	12	3	4 : 1	β下	8	13	5	7	—	18	13	13
61	8	8	1 : 1	αb中央	10	9	5	8	—	15	15	7
63	10	5	2 : 1	β上	7	12	3	6	—	18	13	10
64	14	2	7 : 1	βc中央	7	14	5	7	—	10	7	14
47	12	14	1 : 1.2	αb	13	15	7	10	—	23	12	11
48	16	9	1.8 : 1	bβ	14	18	9	12	—	25	14	17
49	18	2	9 : 1	βc	8	17	7	8	—	15	12	20
50	16	2	8 : 1	β	8	15	7	6	—	23	12	17
51	13	7	1.9 : 1	bβ	10	13	7	8	—	30	27	15
52	10	11	1 : 1.1	αb	15	10	4	8	—	25	15	8
57	7	11	1 : 1.6	αb	13	10	4	8	—	30	22	7
58	17	4	4.2 : 1	β	9	17	7	8	—	13	10	18
60	13	5	2.6 : 1	β	10	15	5	7	—	12	10	14
62	10	15	1 : 1.5	bβ	18	15	7	11	—	27	20	14
65	7	4	1.8 : 1	bβ中央	6	7	2	3	—	11	8	8

三例)

一五耗(No.6, 7) 一一耗(No.23)
一〇耗(No.11, 25) 三五耗(No.14)

第三章 ドーグラス氏腔

第一項 ド氏腔底ノ骨盤

ニ對スル位置

ド氏腔ノ底トハ、男子ニ於テハ直腸膀胱窩、女子ニ於テハ直腸子宮窩ノ各最低點ヲ以テス。以下記スル處ハ凡テ骨盤ノ正中斷面ニ就テ計測シタルモノナリ。(以下附表十一參照)

一、各骨盤前後徑トノ上下ノ位置的

關係

骨盤前後徑ヲ(a)骨盤入口前後徑、(b)骨盤廣部前後徑、(c)骨盤狹部前後徑、(d)骨盤出口前後徑等ノ外ニ更ニ(a)ト(b)トノ中央ニ前後徑(α)、(b)ト(c)トノ間ニ前後徑(β)ヲ設ク。從ツテ以下ノ表ニ於テ例ヘバα.b)トセルハ(α)ト(b)トノ間、(b)トセル(b)線上ヲ意味ス。

ド氏腔ノ底ガ各骨盤前後徑ノ上下方

第 八 十 二 表 [附表(十一)参照]

位置	成 人 (例數)			初生兒 (例數)			胎兒 (例數)	小兒 (例數)
	♂	♀	♂+♀	♂	♀	♂+♀	♀	♀
ab	1		1					
b		1	1					
bβ		3	3	1	3	4		1
β		3	3	2	5	7	1	
βc	4	5	9	3	2	5		1
c		1	1	1		1		
cd	1	4	5	2		2		
d以下	1		1					
計	7	17	24	9	10	19	1	2

第 八 十 三 表 [附表(十一)参照]

位 置	成 人 (例數)			初生兒 (例數)			小兒 (例數)
	♂	♀	♂+♀	♂	♀	♂+♀	♀
骨盤軸ヨリ前方ニアルモノ	2	3	5	3	1	4	2
骨盤軸ヨリ後方ニアルモノ	2	11	13	2	7	9	
骨盤軸ノ線上ニアルモノ	3	2	5	5	1	6	
計	7	16	23	10	9	19	2

何レノ部位ニ在ルカヲ見ルニ第八十二表ニ於ケルガ如シ。成人ニアリテハ(β.c)即チ骨盤狹部前後徑ヨリ稍々高キ部位ニアルモノガ最モ屢々ニシテ、初生兒ニ在リテハ之レヨリモ尙高キ(β)ニアルモノガ最モ屢々ナリ。左表ヲ通覽スルニ成人ニ於テハ初生兒及ビ小兒ニ於ケルヨリモド氏腔ノ底ハ低位ニ在ルコト明カナリ。男女ノ比較ニ就テハ特記スルニ足ル差違ヲ見ズ。又成人ニテ(a.b)及ビ(b)ニ在ル各一例ハ何レ

モ直腸膨滿著シキモノナリ。

二、骨盤軸ニ對スル前後ノ位置的關係

ド氏腔ノ底ガ骨盤軸ノ前後方ノ何レノ部位ニ在ルカヲ見ルニ第八十三表ニ示スガ如シ。即チ成人及ビ初生兒ノ何レモ屍中一八例ニ於テハ後方ニ在レドモ、一七例ノ男屍中八例ニ於テハ軸上ニアリテ、後方ニ在ルモノ僅カニ四例ノミナリ。斯カル現象ハ女ニテハ子宮ノ介在ニヨルナリ。成人ト初生兒トヲ比較スルニ特ニ差違ヲ認メズ。

三、ド氏腔底ヨリ骨盤入口前後徑へ下シタル垂線ノ長サ
成人ニテハ此ノ垂線ノ長サハ直腸強盈狀態ナル女一例(No. 11)ニ見ル三二耗ノモノ、男一例(No. 40)ニ見ル三五耗ノモノヲ除ケバ次表(第八十四表)ノ如クニシテ男女ヲ比較スルニ大差ヲ見ズ。

第 八 十 四 表 (附表(十一)参照)

長サ(耗)	例 數 (No.) 女 (成人)	例 數 (No.) 男 (成人)
一四〇	一 (No. 26)	〇
四一五〇	一 (No. 27)	〇
五一六〇	〇	一 (No. 46)
六一七〇	八 (No. 2, 3, 6, 7, 13, 15, 20, 25)	三 (No. 41, 43, 44)
七一八〇	四 (No. 4, 5, 8, 10)	〇
八一九〇	一 (No. 14)	〇
九一一〇〇	〇	二 (No. 42, 43)
計	一五例(四〇—八七)平均六七・一(耗)	六例(六〇—九八)平均七〇(耗)

(Faison ニヨレバ(男一三例調査)此ノ長サガ直腸ノ虚時ニハ八四耗、其ノ盈時ニハ二二耗ナリトセリ。Waldeyer ニヨレバ女ニテハ三〇乃至四〇耗ナリトセリ。

四、ド氏腔ノ底ヨリ骨盤狭部前後徑へ下セル垂線ノ長サ

成人ニ於テハ第八十五表ノ如クニシテ、男女共ド氏腔底ハ骨盤狭部前後徑ヨリ上方ニ位スルモノ多シ。而シテド氏腔底ハ本徑線ヨリ上方へ向ツテハ女ニテハ最大二九耗、男ニテハ最大三八耗ニ達シ下方ニ向ツテハ女ニテハ最大九耗、男ニテハ最大二〇耗ニ達セル部ノ間ニアリ。

附 表 (十一)

骨盤ニ對スルドウグラス氏腔底ノ最下點ノ位置の關係 (尺度ハ耗)									
No.	各骨盤前後徑トノ位置の關係	骨盤軸トノ位置の關係	骨盤入口前後徑トノ	骨盤狹部前後徑トノ	第五薦骨下端トノ距離	骨盤後壁ニ對スル高サ	(三)ト(四)トノ比	肛門ト斷計距離(ハ非)	直腸虛盈狀態但シ(卅)
	(一)	(二)	(三)	(四)	(五)	(六)	(三) : (四)	(八)	(九)
2	βc	20前方	62	9下方	70	Ⅱ.C	—	45	(++)
3	bβ	12後方	65	24	40	V.S	2.7 : 1	70	(+)
4	cd	8後方	73	4下方	45	Ⅲ.C下	—	32	(-)
5	c	6後方	77	線上	47	(Ⅱ.Ⅲ)C	—	40	(-)
6	βc	12後方	68	10	36	(Ⅰ.Ⅱ)C	6.8 : 1	45	(-)
7	bβ	13後方	63	25	50	V.S	2.5 : 1	57	(+)
8	cd	軸 上	77	8下方	55	Ⅳ.C下	—	50	(+)
9	—	—	—	—	—	—	—	45	—
10	βc	9後方	73	9	52	Ⅲ.C下	8.1 : 1	80	(-)
11	b	17前方	32	31	75	Ⅱ.C	1 : 1	83	(卅)
13	βc	7後方	70	2	42	Ⅱ.C	3.5 : 1	50	(-)
14	cd	3後方	87	8下方	50	Ⅲ.C	—	47	(++)
15	β	3後方	68	19	50	I.C	3.6 : 1	75	(+)
20	β	8後方	68	14	47	I.C	4.9 : 1	85	(卅)
25	βc	4後方	65	9	50	(Ⅱ.Ⅲ)C	7.2 : 1	47	(-)
26	bβ	6前方	40	29	70	Ⅱ.C	1.4 : 1	70	(卅)
27	β	軸 上	50	25	50	Ⅱ)	2 : 1	65	(卅)
12								(60)	
16								(45)	
19								(55)	
21								(50)	
22								(60)	
24								(85)	
29								(50)	
30								(75)	

第八十五表 [附表(十一)参照]

徑線ニ對スル底ノ部位	例 數 (No.) 女(成人)	例 數 (No.) 男(成人)
上方ニアルモノ	一 (No. 3, 6, 7, 10, 11, 13.) (15, 20, 25, 26, 27)	五 (No. 40, 41, 43, 44, 46)
下方ニアルモノ	四 (No. 2, 4, 8, 4)	二 (No. 42, 43)
徑線上ニアルモノ	一 (No. 5)	〇
上方ニアルモノ	二乃至二九耗	一〇乃至三八耗
下方ニアルモノ	四乃至九耗	五乃至二〇耗

五、第五薦骨下端トノ直線距離

左ノ如クニシテ之ヲ男女ニ就テ比較スルモ大差ナシ

成人女 { (三六—五〇耗) 一一例 (No. 3, 4, 5, 6, 7, 13, 14, 15, 20, 25, 27)
 (五一—六〇耗) 一一例 (No. 8, 10)

成人女 { 六一—七五耗 三例 (No. 2, 11, 26)

即チ一六例、平均五一・八(三六—七五)耗

成人男 { 三三—四五耗 二例 (No. 42, 45)
 (五三—七〇耗) 五例 (No. 40, 41, 43, 44, 46)

即チ七例、平均五二・三(三三—七〇)耗

六、骨盤後壁ノ高サニ對スル關係

直立位ニ於テド氏腔ノ底ヲ通過スル地平線ガ骨盤後壁ニ交ル處ヲ以テド氏腔底ノ骨

71							(50)
73							(45)
74							(40)
75							(55)
80							(40)
備考 1. 但シ(4)及ビ(3) : (4)ニ於テ下ト記セルハド氏腔底ガ骨盤狹部前後 徑ヨリ何耗下方ニアルカノ意ナリ 2. 直腸全長並ニ直腸骨盤部全長ハ附表(五)ヲ参照スベシ							

盤後壁ニ對スル高サトス。之レニヨル時ハ第八十六表ノ如シ。即チ男女共第二尾閭骨乃至之レト第三尾閭骨トノ界ノ高サニアルモノ比較的多シトス。初生兒ニ於テハ成人ニ於ケルヨリモ概シテ高キガ如シ。男女ニヨル區別ハ之レヲ見出サズ。

第八十六表 【附表(十一)参照】

	女		男		♂+♀ 例數	初 生 兒		小 兒	
	例數	No.	例數	No.		例數	No.	例數	No.
骨盤後壁ノ高サ									
V S	2	3. 7	1	40	3	1	57		
V S. I C			1	41	1	4	55. 56. 51. 58		
I C	2	15. 20			2	1	62		
(I II) C	1	6			1	5	53. 59. 63. 47. 52		
II C	4	11. 13. 26. 27	2	42. 44	6	3	48. 50. 10		
(I. II) C	3	2. 5. 25	2	43. 46	5	2	54. 49	1	32
III C	1	14			1	2	64. 28		
III C以下	3	4. 8. 10	1	45	4	1	61	1	31
計	16		7		23	19		2	

歐人記載ニヨレバ種々ナレドモ之レヲ綜合スルニ第五薦骨下端乃至尾閏骨下端ノ間ニアリトセルガ如シ。例へバ Luschka ニヨレバ薦骨最下端ノ高サトシ、Jessel u. Waldeyer ニヨレバ男ニ在リテハ第一尾閏骨下端ニ在リ。一般ニ女ハ男ニ比シテ低ク初生兒及ビ小兒ハ成人ニ比シテ低シトセリ。初生兒ニ於テハ予ノ場合ニ於テハ Waldeyer ノ云フ處ト異リ、成人ニ比シテ寧ロ高シ。

第 八 十 七 表 [附 表 (十 一) 參 照]

位 置	成 人 (No.)	例數	初 生 兒 (No.)	例數	小 兒 (No.)	例數
底ガ骨盤前後 徑以下ニアル 例	2. 4. 5. 8. 14. 42	6	28. 54. 64	3		
35 : 1 (a : b)	13	1				
14 : 1 (,,)					32	1
11 : 1 (,,)			59	1		
10 : 1 (,,)			50. 63	2		
8 : 1 (,,)	10	1				
7 : 1 (,,)	6. 25. 41. 43. 44	5				
6 : 1 (,,)			48. 52	2		
5 : 1 (,,)	20. 45	2	49	1		
4 : 1 (,,)	15	1	56	1		
3 : 1 (,,)	3. 7. 46	3	51. 53. 57. 55 60. 61. 62	7	31	1
2 : 1 (,,)	27	1	47. 58	2		
1 : 1 (,,)	11. 26. 40	3				
	計	23		19		2

備考 aハD氏腔底ヨリ骨盤入口前後徑ニ下シタル垂線ノ長サヲ示シ
bハ狹部前後徑ニ下シタル垂線ノ長サヲ示ス

人ニ比シテ寧ロ高シ。
七、D氏腔ノ底ヨリ骨盤入口前後徑ニ下シタル垂線ノ長サト狹部前後徑ニ下シタル垂線ノ長サトノ比

此兩者ノ比ハ甚ダ種々ナリ。成人ニ於テハ直腸著シク膨滿セルモノ(No. 11, 26, 27, 40)ヲ除ケバ初生兒ニ比シテ稍々低位ニアルヲ知ル。又腔底ガ骨盤前後徑以下ニアルモノヲ成人二三例中六例、初生兒一九例中三例ニ見ル。其他ハ該徑線ヨリ以

上ニアルモノナリ。即チ第八十七表ニ見ルガ如シ。

八、**ド**氏腔ノ底ガ骨盤ニ對スル高サノ年齡的關係

(イ)**ド**氏腔ノ底ガ骨盤ノ入口前後徑並ニ狹部前後徑ニ對スル垂線距離ノ比ニ於テハ成人二三例ニ於テ見ルニ左ノ如シ。

八對一乃至線下ニアルモノ	三九歳以下	八例(一五例中)
三對一乃至七對一	四〇歳以上	〇
一對一乃至二對一	三九歳以下	六例(一五例中)
	四〇歳以上	五例(八例中)
	三九歳以下	一例(一五例中)
	四〇歳以上	三例(八例中)

(ロ)骨盤後壁ノ高サニ對スル關係ニ於テハ(成人男女二三例)

第二、第三ノ各尾間骨間乃至第三尾間骨以下	三九歳以下	七例(一五例中)
	四〇歳以上	三例(八例中)
第五、薦骨第一尾間骨間	三九歳以下	八例(一五例中)(内一例ハ直腸盆)
	四〇歳以上	五例(八例中)(内四例ハ直腸盆)

以上(イ)(ロ)ニ於テ直腸膨滿セルモノヲ除外シテ見ル時ハ四〇歳以上ノモノニ於テハ三九歳以下ニ於ケルモノヨリモ概シテ**ド**氏腔底ガ骨盤ニ對シテ高位ニアルガ如キヲ見ル。

第二項 **ド**氏腔ノ底ト肛門トノ直線距離

本調査ニ用ヒタル材料ハ凡テ硬化屍ニシテ、成人ニテハ骨盤正中斷二四屍及ビ然ラザルモノ一六屍ナリ。内女二五屍、男一五屍トス。正中斷ノモノハ圖上ニ於テ測リ、然ラザルモノハ肛門ヨリ度盛リセル消息子ヲ挿入シ、上方骨盤腔内ヨリ

示指ヲド氏腔ニ挿入シテ、消息子頭ヲ腔底ニ該當セル直腸内壁ニ達セシム。斯クシテ計測セル數字ニハ此ノ場合ハ一々消息子頭トド腔底トノ間ニ挟マレタル直腸壁ノ厚サヲ加算セルハ勿論ナリ。直腸強盈屍ニ於テハド氏腔底ハ押上ゲラル、モノナレバ、斯卡ルモノ女ニテ三例、男ニテ二例ヲ夫々除外シテ見ル時ハ第八十八表ノ如ク女ハ男ニ比較シテ此距離ハ大ナルヲ知ル。

第八十八表 (附表(十一)参照)

距離(距)	例 數 (♀) 女(成人)	例 數 (♂) 男(成人)
一三〇	〇	一(45)
三〇—四〇	11(45)	3(66 74 80)
四一—五〇	10(14 16 21 25 29 26 8 9 13)	4(42 70 71 73)
五一—六〇	4(7 12 12 19 22)	4(43 44 46 75)
六一—七〇	3(3 26 27)	1(41)
七一—八〇	3(10 15 30)	〇
	一一二例平均五五・一(三二—八〇)	一三例平均四六・七(三〇—六五)

直腸ノ影響ハ大ナルコトハ左ノ如ク前記五例ノ直腸盈状態ノモノニ於ケル距離ガ著シク大ナルヲ見ルモ明カナリ。

女 { No. 11 83 耗
No. 20 85 耗
No. 24 85 耗 } 男 { No. 40 85 耗
No. 70 70 耗 }

歐人ニ關シテハ男女ヲ區別セザルモノトシテ Inschka (五・五—八 耗)、Waldeyer (五—六 耗)、Zehnlze (六—八 耗)等ノ記載アリ。男ニ於ケルモノトシテハ左ノ諸家ノ記載アリ。即チ

Garson (文獻一一三例ノ綜合ニテ七一八 耗)、Disse (三三例ニテ六一八 耗)、Träger (諸家ノ說ヲ綜合シテ五・五—一〇・八 耗)、Jonnesco (zit. nach Träger) (五—七 耗) Cunningham (七・五 耗) Symington (三三例ニテ三・五—一〇・〇 耗)等トス。石川氏ハ邦人女一六例(四—一八〇 耗)其平均六二 耗ト記載セリ。以上ノ記載ハ直腸ノ虛盈状態ヲ顧慮セルモノニ非ザレバ之レヲ以テ直チニ予ノ成績ト比較スルコト能ハザレドモ歐人ニ於ケルモノハ予ノ邦人ニ於ケルモノニ比シテ此ノ距離ハ概シテ大ナルガ如シト云フベシ。初生兒並ニ小兒ニ就テ見ルニ左ノ如シ(第八十九表參照)。Disse ハ初生兒二例ニテ二六 耗

第八十九表 〔附表(十一)参照〕

距離(匁)	例 數 (No.)・初生兒	例 數 (No.)・小兒
一七—二〇	二(28 56)	〇
二一—三〇	一四(57 59 60 61 62 63 64 44 48 49 50 51 52 53)	三(1 31 67)
三一—三五	三(54 55 58)	一(32)
	一九例(一七一—三五)平均二五・一	四例(二八—三三)平均三〇・三

第九十表 〔附表(一)及(十一)参照〕

距離(匁)	例數(No.) (三九歳以下二〇例)	例數(No.) (四〇歳以上一九例)
三〇—四〇	三 女 (4 5) 男 (45)	〇
四一—五〇	二 女 (2 6 8 9 13 14 16) 男 (42 44 71 74 80)	六 (66 70 73) (21 25 29)
五一—六〇	二 女 (7 12) 男	五 (43 46 47) (19 22)
六一—七〇	一 女 (3) 男	四 (41 69) (26 27)
七一—八五	三 女 (10 11 15) 男	四 (40) (20 24 30)

直腸盈時ニD氏腔底ガ押上ゲラル、コトハ既ニ諸家ノ記載ニモ見ル處ナリ。即チGarsonニヨレバ男ニテハ普通七乃至八糎ナルモ直腸盈時ニハ一〇乃至一二、五糎ニ達スルコトアリト云ヒ、Jessel u. Waldeyerニヨレバ直腸盈時ニハ一・五乃至二糎丈ケ押シ上ゲラルト云ヒ、Cunninghamニヨレバ男ニテハ此ノ距離ハ普通ハ七・五糎ナルモ直腸盈時ニハ一〇乃至一一・二糎ニ増大スト云ヘリ。Quènn (Zit nach Jessel u. Waldeyer)ニヨレバ直腸盈時ニハD氏腔底ハ四糎丈ケ押シ上ゲラル、事アリト云ヘリ。又GarsonニヨレバD氏腔底ハ膀胱盈時ニ押シ下ゲラル、程度ヨリモ、直腸盈時ニ押シ上ゲラル、程度ノ方ガ大ナリトモ云ヘリ。予ノ例ニ於テモ前述ノ如ク男女共直腸盈時ニハD氏腔底ハ著シク上昇シ、平均五〇糎内外ノ距離ガ八五糎ニ増大セルヲ見ル。又

No. 42 (男)ニ於テハ直腸膀胱共ニ可成リ膨滿セルガ其ノ距離ハ五〇耗ニシテ男ニ於ケル平均距離ヨリハ僅カニ大ナリ。
Schittolt ニヨレバ直腸虛ト雖モ肛門トド氏腔底間ノ距離ハ男ニテハ五・五糧以下ナルハナシ。只一例ノ中年男子ニシテ一
異型トモ云フベキモノニ一糧ヲ算スルニ過ギザルモノヲ見タリト云ヘタリ。予ノ例ニ於テハ最低位ノモノトシテ此距離
ガ三〇耗(男)及ビ三二耗(女)ノモノヲ各一例宛ニ認メタリ。Täger ニヨレバ老人(男)一例ニ於テド氏腔底ガ骨盤底ノ高
サニ達セルモノヲ見タリト云ヘリ。

年齢の關係ヲ見ルニ男女共老齡者ニ此ノ距離が大ナルモノ多キガ如キ傾向アリ。(第九十表參照) 直腸膨滿セル五例
(No. 11, 20, 24, 40, 65)ヲ除外スルモ此ノ關係ハ依然タリ。Jössel u. Wuldeyer ニヨレバ男子ニテハ老齡者ニ攝護腺肥
大ガ屢々來リ、爲メニ此ノ距離が増大スルコトアリト云ヘリ。

附 表 (十二) (尺度ハ耗)

番 號	沿ルニ測 壁フテ		何ナル比ニ分ツカ	上下如何ナル比ニ分ツカ	ル腹膜臟轉線ノ兩側ノ高	
	サ	部ノ長サ			右側	左側
2	30	15	5 : 1	10 : 1	60	15
3	70	55	2 : 1	2 : 1	—	—
4	32	20	4 : 1	7 : 1	同高	同高
5	43	26	3 : 1	4 : 1	25	15
6	55	35	不明	—	—	—
7	55	35	1 : 1	1 : 1	17	17
8	40	20	3 : 1	6 : 1	35	25
9	45	20	3 : 1	8 : 1	25	13
10	75	60	1 : 1	1 : 1	20	10
11	80	55	2 : 1	3 : 1	同高	同高
13	40	15	3 : 1	7 : 1	15	同高
14	50	35	2 : 1	3 : 1	25	25
15	70	40	2 : 1	3 : 1	25	10
20	90	65	2 : 1	3 : 1	同高	同高
23	75	62	1 : 1	2 : 1	—	—
25	53	33	2 : 1	4 : 1	40	20
26	55	35	2 : 1	2 : 1	30	35
27	65	50	1 : 1	1 : 1	20	同高
40	80	60	2 : 1	2 : 1	55	35
41	90	70	1 : 1	1 : 1	15	10
42	60	40	2 : 1	3 : 1	30	25
43	55	30	2 : 1	4 : 1	—	—
44	65	52	2 : 1	2 : 1	15	30
45	27	7	5 : 1	18 : 1	15	15
46	50	35	3 : 1	3 : 1	20	20

第九十一表 〔附表(十二)参照〕

ド氏腔底ヨリ上方ノ直腸ノ長サト之ヨリ下方ノ直腸ノ長サトノ比									
五 對 一	四 對 一	三 對 一	二 對 一	一 例 一	(上方對下方)				
二	一	五	一	六	例數 (‰) (成人二五例)				
女 (2)	男 (45)	女 (4)	男 (1)	女 (5)	男 (46)	女 (3)	男 (40)	女 (7)	男 (41)
					(8 9 13)		(11 14 15 20 25 26)		(10 23 27)
○	○	三	一	六	例數 (‰) 初生兒 (男女一九例)				
		(28 52 64)		(47 48 49 50 51 53 54 55 56 59 28)			(57 58 60 61 62 63)		
○	○	○	一	一	小兒二例				
				(31)			(32)		

32	45	38	1 : 1	2 : 1	15	15
31	25	15	2 : 1	4 : 1	15	20
28	23	17		4 : 1		
47	25		2 : 1			
48	22		2 : 1			
49	25		2 : 1			
50	20		2 : 1			
51	20		3 : 1			
52	20		3 : 1			
53	26		2 : 1			
54	30		2 : 1			
55	32		2 : 1			
56	32		2 : 1			
57	30		1 : 1			
58	32		1 : 1			
59	25		2 : 1			
60	25		1 : 1			
61	30		1 : 1			
62	30		1 : 1			
63	27		1 : 1			
64	20		3 : 1			

第三項 ド氏腔底ノ直腸ニ

對スル位置的關係

一、ド氏腔底ハ直腸全長ヲ上下如何ナル比ニ分ツ部位ニアルカ

成人及ビ初生兒共ド氏腔底ハ直腸ヲ上ノ二分ト下ノ一分トノ比ニ分ツ部位ニアルモノ比較的ニ多シトス。之レニ次デ屢々見ラル、モノハ直腸ヲ上下等分ニ分ツ部位ニアルモノトス(第九十一表参照)
(本項ハ附表十二参照)

第六卷
〔原著〕
千葉

成人23例 ド氏腔底ヨリ上方ノ直腸骨盤部ノ長サト之ヨリ以下ノ 直腸骨盤部ノ長サトノ比									
一八對	一〇對	八對	七對	六對	四對	三對	二對	一對	上方對下方
一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一 (45)	一 (2)	一 (9)	二 (4 13)	一 (8)	三 (5 25)(43)	五 (11 14 15 20)(42)	四 (3 23 20)(40)	五 (7 10 27)(41 46)	例數(男)(女)(男)

二、ド氏腔底ハ直腸骨盤部全長ヲ上下如何ナル比ニ分ツ部位ニアルカ
ド氏腔底ヨリ上方ニアル直腸骨盤部ノ長サト之レヨリ下方ニアル直腸骨
 盤部ノ長サトノ比ヲ見ルニ上一對下一乃至上三對下一ノ間ニアルモノ比較
 的多數ヲ占ム。*Jüsseli u. Wuldeyer* ニヨレバド氏腔底ハ直腸骨盤部ノ下二三
 分ノ一ノ上界ニアリト云ヘリ。即チ之レハ予ノ場合ニ於ケル上二對下一ニ
 匹敵スルモノナリ。(第九十二表參照)

第四項 卜氏腔ノ腹膜

一、ド氏腔底ニ於ケル腹膜ノ直腸前面ニ於ケル翻轉線ノ經過狀態

此腹膜翻轉線ハ下方ニ凸面ヲ向ケタル弧ヲ爲スモノナルガ、其ノ弧ノ狀態ニヨリテド氏腔ノ下部ハ或ハ漏斗狀ヲナシ、或ハ其ノ底ガ比較的左右ニ廣キ間隙腔ヲナスコトアリ。且ツ此ノ翻轉線ガ爲ス弧ノ左右ノ部分ノ經過ガ不平等ニシテ或ハ右側ガ長キコトアリ。或ハ左側ガ長キコトアリ。或ハ右側ガ横ニ水平ニ近ク走り、左側ガ斜上方ニ走ル等種々ノ狀態ニアリ。弧ノ左右兩側ニ於ケル部分ガ直腸前面ニ在リテ、腔底ヨリ幾何ノ高サニ迄達

スルモノナルカヲ調査セルニ左ノ如キ結果ヲ得タリ。(成人及ビ小兒二三例調査)(本項 附表(十三)参照)

〔左右ノ高サガ二〇耗以上ノモノ

Ⅰ 左右ノ高サガ殆ンド同ジモノ

〔左右ノ高サガ前二者ノ中間ニアルモノ〕

二三例(内小兒二例)

三例

二三例(内小兒二例)

附 表 (十三)

番 號	直 腸 子 宮 皺 襞		D氏腔口徑並ニ 深サ				D氏腔底ト後腔穹窿トノ高サ	リ上方ニアルコヲ示ス(耗)	D氏腔底ヨリ攝護腺基底迄ノ 直線距離(耗)
	發達程度 (+)有ヲ示ス (-)無ヲ示ス (++)著明ナル事ヲ示ス	皺襞ノ終ル部ニ於ケル骨盤後壁ノ高サ (右側) (左側)	皺襞ノ中央ヨリ底迄ノ距離(深サ)(耗)	皺襞中央ノ高サニ於ケルD氏腔入口ノ横徑(耗)	皺襞中央ノ高サニ於ケルD氏腔入口ノ前後徑(耗)				
2	(+)	(I・II)S (II・III)S	40	30	30	35下 (腔中央)	—		
3	左 右 (-) (+)	— III S	13	20	30	15下	—		
4	(+)	V S V S	8	20	40	同高	—		
5	(++)	IV S (III・IV)S	15	40	35	同高	—		
6	(++)	(II・III)S (II・III)S	15	30	40	3 上	—		
7	(+)	(I・II)S I S	30	25	30	20下	—		
8	(+)幅 ³	II S —	23	35	45	10下	—		
9	(++)	— —	30	35	45	13下	—		
10	左 右 (+) (-)	II S —	5	—	—	13上	—		
11	(+)不著明	(直腸前壁ノ半 バニテ消失ス)	3	30	15	5上	—		
12	(+)	不明 不明	35	55	55	20下	—		
13	左 右 (++) (+)	I S II S	22	30	40	12下	—		
14	(++)	III S II S	20	40	30	15下	—		
15	(+)	(III・IV)S (II・III)S	18	20	30	5 下	—		
16	(+)	— —	45	—	—	25下	—		
17	(+)	— —	20	—	—	20下	—		
19	左 右 (+) (-)	— —	30	—	—	10下	—		
20	(+)	— (III・IV)S	10	40	35	15下	—		
23	(-)	— —	—	—	—	—	—		
24	(+)	I S II S	15	—	—	5 上	—		
25	(+)	— (III・IV)S	12	30	35	同高	—		
26	中央缺如 左 右 (-) (+)	— III S	5	50	35	10上	—		
27	(-)幅 ⁴	— (III・IV)S	10	20	50	5 上	—		
29	左 右 (++) (+)	— —	30	—	—	10下	—		
30	(++)	— —	20	—	—	上方	—		

II
右側ガ高キモノ
左側ガ高キモノ
左右側同高ノモノ

一二例
三例(内小兒一例)
八例(内小兒一例)

テハ之レト全ク反セルモノガ多數(一一例中六例)ヲ占ム。(第九十三表參照)

第六卷 【原著】 千葉

1	(+)			20		20下	—
32	不明					17下 (腔中央)	—
31	(++)幅5	I S	II S	12		3 下	—
33	(++)			18		下方	—
28	左 (-) 右 (+)		I S	21		16下	—
53	(-)					9 下	—
54	(-)					15下	—
55	左 (++) 右 (-)	薦骨岬		30		11下	—
56	左 (-) 右 (+)		II S	12		2 下	—
59	(-)					11下	—
61	(-)					2 下	—
63	(-)					2 下	—
64	(-)					13下	—
40							20
41							22
42							20
43							同高
44							35
45							中央
46							20
No.(2—30) ハ成人(女)		No.(33—64)		初生兒(女)			
No.(1—32) ハ小兒		No.(40—46)		成人(男)			
但シ配列順ニヨル							

以上ヨリ見ル時ハ腹膜ガ直腸面ヲ被包スル部分ハ右側ニ於テハ左側ニ於ケルヨリモ直腸ニ添フテ高キ部分迄達スルヲ知ル。蓋シ直腸ハ此部位ニ於テ多クハ左方ニ向ツテ凸曲ヲ造リ從而其ノ左側ヲ被フ腹膜ハ之レニ伴フテ下リ、右側ヲ被フ部ガ上ルニヨルナラン。

二、直腸子宮皺襞

(イ)、發達程度並ニ有無ニ就テ見ルニ成人ニ於テハ左右共存在スルモノガ多數(一一七例中九例)ヲ占ムレドモ、初生兒及ビ小兒ニ於

第九十三表 【附表(十三)参照】

右	左	右	左	右	左	右	左	皺襞ノ有無
(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	
一 (11)		二 (8 10)		五 (3 20 25 27 26)		九 (2 4 5 6 7 13 14 15 24)		例數 (No.) 成人一七例
六 (53 54 59 61 63 64)		一 (55)		二 (28 56)		二 (31* 32*)		例數 (No.) 初生兒一一例

* 印ハ小兒

第九十四表 【附表 (十三) 參 照】

骨盤後壁 ノ高サ	成 人	(25例)	初生兒及ビ小兒	
	左 側	右 側	左 側	右 側
薦 骨			1 (No. 55)	
I, S	2 (No. 10, 24)	1 (No. 7)	1 (No. 31*)	1 (No. 75)
(I・II) S	2 (2, 7)	—	—	—
II S	1 (10)	3 (13, 14, 24)	—	2 (31*, 56)
(II・III) S	1 (6)	3 (2, 6, 15)	—	—
III S	2 (14, 18)	2 (3, 26)	—	—
(III・IV) S	1 (15)	4 (5, 20, 25, 27)	—	—
IV S	1 (5)	—	—	—
V S	1 (4)	1 (4)	—	—
計	11例	14例	2例	3例

(ロ)、皺襞端ノ骨盤後壁ニ於ケル終點ノ高サニ關シテハ之レハ多クハ左右不同ナリ。即チ左右同高ハ二例 (No. 4, 6) 左右不同高七例 (No. 2, 5, 7, 13, 14, 15, 24) ナルガ如シ。初生兒及ビ小兒ニ就テハ此ノ關係ヲ明確ニ調査スルコト不可能ナリ。只小兒一例 (No. 31) ニテハ左右不同高ナルヲ認メタリ。

(ハ)、左右皺襞カ骨盤壁ノ何レノ高サニ達シテ終ルカラ見ルニ、概シテ左側ハ高キニ達シ、右側ハ之レヨリ低シ。而シテ右側ニ於テハ第二薦骨以下第三、第四兩薦骨ノ界ニ至ル間ニ在リテ骨盤後壁ニ終ルモノ多キヲ知ル。初生兒及ビ小兒ニ

於テハ成人ニ於ケルヨリモ其ノ終點ハ稍々高キガ如シ。即チ第九十四表ノ如シ。
 歐人ニ關シテハ Iuschni ニヨレバ種々ノ高サナレドモ普通第二薦骨ノ高サトシ、Tschannsow ハ一七例ニ就テ第二、第三及ビ第四薦骨ノ高サノ間ニ至ルトシ、Waldayer ニヨレバ第三薦骨ノ高サトシ、Teint 一乃至第三薦骨ノ高サニ至ルトセリ。而シテ Huse ハ二例ニ於テ直腸ノ額面上彎曲ト一定ノ關係アルヲ見タリト曰ク直腸ガ左右凸曲ヲ形成セル場合ニハ本皺襞ノ右側ガ短クシテ且ツ急ニ昇リ、左側ハ水平ニ近ク走リテ且ツ長シ。若シ直腸ガ左方凸曲ヲナス時ニハ前者ト反對ノ狀態ヲ呈スト。

第九十五表 (附表(十三)参照)

深サ(耗)	例數(%)成人(二五例)	初生兒 小兒(*)
三—一〇	六 (8 10 11 20 26 27)	〇
一一—一六	五 (3 5 6 24 25)	二 (31* 56)
一七—二二	五 (13 15 14 30 17)	二 (1* 33)
二三—二八	二 (8 22)	一 (28)
二九—三四	四 (7 9 29 19)	一 (55)
三五—四〇	二 (2 12)	〇
—四五	一 (16)	〇

第五項 ド氏腔ノ廣サ並ニ深サ

一、子宮後壁ニ於ケル直腸子宮皺襞ノ中央點ヨリド氏腔底迄ノ深サ

直腸子宮皺襞ハ子宮後面ニ起リテ左右ニ走リテ骨盤壁ニ至ルモノナルガ、之レニヨリテド氏腔ハ上下ニ分タル。爰ニ單ニド氏腔ト稱スルハ此ノ下部ナル袋狀ヲナセル部ナリ。成人及ビ初生兒ニ於ケル計測ノ結果ハ第九十五表ノ如シ。(本項ハ附表(十三)参照)

二、ド氏腔ノ直腸子宮皺襞中央部ノ高サニ於ケル口徑

(イ)橫徑、(第九十六表参照)

(ロ)前後徑、(第九十七表参照)

第九十六表 【附表(十一)参照】

平均六五・二耗	七一一八五	六一一七〇	五一一六〇	四五一五〇	ド氏腔ノ入口ノ横徑(耗)	成人一八例 例數(ノ。)	(* 印ハ小兒)
	五 (5 8 9 20 26)	五 (6 13 14 25 27)	四 (2 4 7 12)	四 (1* 3 11 15)			

第九十七表 【附表(十三)参照】

一 一 一 五	二 一 一 〇	前後徑(入口ノ耗)	例 數 (ノ。)	成人(一六例)
三	一三		(2 3 4 6 8 10 11 14 15 20 25 26 27)	
(5 7 13)				

以上(一)及ビ(二)ヲ通覽スルニド氏腔ノ深サハ屍ノ異ルニ從ツテ甚ダシク其ノ深淺ノ度ヲ異ニセルモノナリ。其ノ入口ノ廣サハ左右徑ハ廣クシテ、前後徑ハ甚ダ狹シ。故ニ其ノ内腔ハ前後ニ扁壓セラレタル間隙トモ云フベキナリ。

文献ニ徴スルニド氏腔ノ深サニ關シテハ Jonnesco (zit. nach Trüger) ニヨレバ其ノ入口ノ横徑ヲ三・五糎トセリ。Trüger ハ一例ニテ其横徑六糎、深サ三糎ノモノヲ見タリト云ヘリ。小兒ニ於テハ Kolliker (zit. nach Zuckerkandi) ハ一例ニ於テ其入口横徑二・二糎、前後徑ヲ一・五糎ナルヲ見タリト云フ。Jössel u. Waldeyer ニヨレバド氏腔ノ深サハ成人ニテハ三乃至五糎トナシ、Jonnesco ハ三乃至四糎トセリ。

第六項 ド氏腔底ノ後腔穹窿ニ對スル位置的關係

成人ニテハド氏腔底ハ後腔穹窿ヨリモ下方ニアルモノ大多數ヲ占ム。(第九十八表参照)而シテ其ノ程度ニ就テ見ルニ第九十九表ノ如キモ後腔穹窿ヨリ下方腔底迄ノ距離ガ甚ダシキハ三五糎ヲ算シ、ド氏腔底ハ腔ノ中央迄達ス(No. 2)ルコトアリ。又腔底ガ後腔穹窿ヨリ上方ニアル場合ニ於テハ最も高キモノニテハ兩者ノ距離一五糎ヲ算ス。之レヲ要スルニ

ド氏腔底ハ後膣穹窿ヨリモ上方ヘ一五耗ヨリ下方ヘ三五耗ノ間ヲ上下スレドモ概シテ云フ時ハ上方ヘノ距離ハ下方ヘノ距離ニ比シテ大ナル例多數ナリ。(本項ハ附表(十三)参照)

第九十八表 (附表(十三)参照)

ド氏腔底ト後膣穹窿トノ關係	例數 (No.)	成人 二六例
ド氏腔底ガ後膣穹窿ヨリモ下方ニ在ルモノ	一五 (1 2 5 7 8 9 12 13 14 15 16 17 19 22 29)	
之ガ上方ニアルモノ	八 (6 10 11 20 24 26 27 30)	
兩者同高ノモノ	三 (4 5 25)	

第九十九表 (附表(十三)参照)

D氏腔底ガ後膣穹窿ヨリ下方ニアル場合			D氏腔底ガ後膣穹窿ヨリ上方ニ在ル場合		
兩者間ノ距離 (耗)	例數 (No.)		例數 (No.)		
三—一〇	五 (22 29 8 15 19)		五 (6 11 24 26 17)		
一一—二〇	八 (1 3 7 9 12 13 14 17)		二 (10 20)		
二—三〇	一 (16)		〇		
三—三五	一 (2)		〇		
十五例(三—三五)平均一六・三耗			七例(三—一五)平均八耗		

ド氏腔底ニ於ケル腹膜ガ子宮頸部以下並ニ膣穹窿部ヲモ被フコトアルハ周知ノコトナルガ後膣穹窿部ヲ被フ範圍ニ關シテハ Jössel u. Waldeyer ニヨレバ此腹膜翻轉部ハ後膣穹窿ヨリ下方一・五乃至二糎ニ達スト云ヒ、Cunningham ニヨレバ腹膜ハ膣ノ上部四分ノ一ヲ被フト云ヒ、Insecka, Cunningham ニヨレバ其レガ膣上部ヲ被フト云ヘル如ク種々ノ記載ヲ見ル。初生兒ニ就テ見ルニ調査例ノ凡テ(一二例)ニ於テド氏腔底ハ後膣穹窿ヨリモ下方ニアリ。而シテ兩者間ノ距離ハ二乃至一七耗トス、又小兒二例ニ就テ見ルモ何レモド氏腔底ハ後膣穹窿ヨリ下方ニ在リテ一六耗及ビ一七耗ナルヲ認ム。其ノ内ノ一例(No 32)ハ膣ノ中央ニ達セリ。

之レニ由ツテ觀レバ初生兒ニ於テハ成人ニ比シド氏腔底ガ後膣穹窿ニ對シテ低位ニアルコト多シト云フベシ。Zuckerkandl ニヨレバ初生兒ニ於テハ腹膜ハ後膣穹窿ヲ被ヒ、時トシテハ膣上半部ヲ被フ。屢々膣ノ上部三分ノ一ヲ被フコトア

リ。三ヶ月胎兒(一例)ニテハ膈ノ上四分ノ三ヲ被ヘルヲ見、他ノ一例ニテハ其上半部ヲ被ヘルヲ見タリト云ヘリ。Disse
ニヨレバ初生兒ニテ一例ハ子宮頸部ヲ被ヒ、他ノ一例ニテハ膈上部ヲ被フコト八耗ヲ算セリト云ヘリ。

第七項 直腸膀胱窩底ノ攝護腺ニ對スル位置的關係

窩底ノ攝護腺ニ對スル位置ニ關シテハ成人七例ニ就テ見ルニ左ノ如シ。(附表(十三)參照)

窩底ガ攝護腺ノ中央ニ達スルモノ 一例

窩底ガ攝護腺ノ基底部ニ達スルモノ 一例

窩底ガ攝護腺ノ基底部ヨリ上方ニアルモノ {二〇—二二耗上方四例
三五耗上方 一例

Disse ハ六例ニ於テ窩底ハ攝護腺基底乃至左右輸尿管開口部ノ結合線上方一糲ノ間ニアリトシ、Trigger ハ文献上ヨリ
見テ窩底ハ攝護腺基底ヨリ下方ニ下ラズトセリ。Luschka ニヨレバ窩底ハ左右輸尿管開口部ノ結合線迄下降スト云ヒ、
Tissel ニ Wadleyer ニヨレバ窩底ハ攝護腺ニ對シテ其ノ基底ヲ上方ニ走ルコト一乃至一・二糲ノ部迄下降シ、左右輸尿管
開口部ノ結合線ニ對シテハ之レヨリ〇・五乃至一・〇糲下方迄下降ストセリ。Cunningham ニヨレバ窩底ハ攝護腺基底ヲ
上方ニ去ルコト二・五糲ノ部ニ達ストセリ。

以上諸家ノ記載スル處ハ予ノ例ニモ其ノ多數例ニ見ル。Trigger ハ骨盤内臓並ニ直腸膀胱窩底ガ共ニ甚ダシク下垂セル
老人ノ一屍體ニ就テ窩底ガ攝護腺ノ尖頂迄下降セル一異型ヲ認メタリト云ヘルガ予ノ例ニ於ケルハ前記ノ如ク異常
ニ低キ窩底ヲ有セルモノナルガ窩底ハ攝護腺ニ對シテハ其ノ中央ニ達ス(骨盤出口前後徑ノ以下一・二糲ニ在リ、肛門トノ
距離ハ四〇耗)殆ンド骨盤底ニ達セルモノナリ。

初生兒六例ニ就テ見ルニ左ノ如シ。

【窩底ガ攝護腺ノ基底ニ達スルモノ 一例 (No. 47 50)

〔窩底ガ攝護腺ノ尖頂ニ達スルモノ

一例 (No. 52)

〔窩底ガ攝護腺基底ニ達セザルモノ

二例 (No. 51 60 62)

之レニヨレバ初生兒ハ成人ニ比シ窩底ハ攝護腺ニ對スル位置低シト云フコトヲ得ベシ。初生兒ニ關シテハ Zuckerkandl ハ窩底ガ攝護腺迄下降スト云ヒ、Jössel u. Waldeyer 等ニヨレバ攝護腺基底迄下降スト云ヘリ。然シ又 Bardenheben ニヨレバ精囊及ビ攝護腺ノ全部ガ腹膜ヨリ被ハレタルモノヲ見タリト云ヘリ。Zuckerkandl ニヨレバ胎生期ノ或ル時期ノモノニハ窩底ガ攝護腺尖頂迄下降セルヲ見タリト云ヘリ。以上初生兒ニ關スル記載モ亦予ノ所見ト略一致セリト云フベキナリ。

第八項 攝護腺ノ位置並ニ其ノ他二三ノ事項ニ就テ

成人七例ニ就テ左ノ事項ヲ調査セリ。

一、肛門前縁ト攝護腺頂トノ距離ハ(二二—五〇)平均三六・六耗

二、肛門前縁ト攝護腺基底トノ距離ハ(三四—七五)平均五〇耗

三、骨盤出口前後徑(尾間骨下端ノ耻骨聯合下縁)ハ攝護腺ノ何レノ部ヲ通過スルカト云フニ左ノ如シ。

(イ)攝護腺ノ尖頂ノ直下ヲ通過スルモノ二例 (No. 40) (膀胱直腸共盈) (No. 43) (膀胱直腸共ニ虛)

(ロ)攝護腺ノ基底ノ直上ヲ通過スルモノ一例 (No. 44) (膀胱直腸共ニ盈)

(ハ)攝護腺ノ中央ヲ通過スルモノ三例 (No. 41, 42) (膀胱盈直腸虛) (No. 45) (膀胱直腸共ニ虛)

(備考) 以上(イ)(ロ)(ハ)ノ相互間ノ位置ヲ通過セル例ハ之ヲ缺ク)

四、攝護腺ノ形狀ニ就テ

(イ)攝護腺ノ基底ヨリ尖頂迄ノ高サハ(一五—三〇)平均二三・九耗

(ロ)攝護腺ノ最大幅員ハ(二〇—四〇)平均二・六五耗

然レドモ直腸又ハ膀胱ノ虚盈ニヨリテ多少ハ其ノ形狀ヲ變ズルモノ、如シ。例ヘバ(Nolta)ニテハ高サ二〇耗、幅四〇耗ナルガ之レハ膀胱著シク盈ナル爲メ攝護腺ハ扁壓セラレテ横ニ伸ビタルモノナルガ如シ。(Nolta)ニ於テハ高サ三〇耗幅二三耗ナリ。之レ直腸盈ナル爲メ膀胱底ハ押シ上ゲラル、ト共ニ攝護腺ハ上下ニ伸展セラレタルニヨルナラン。斯カル狀態ヲ呈セルモノハ Garson モ既ニ認メタル處ナリ。肛門ト攝護腺間最短距離トシテハ Schlotoff ハ文献(一八例)圖ヨリ調査シテ二〇乃至六〇耗トシ、Cunningham ハ之レヲ六〇耗ト云ヘリ。又 Schlotoff ニヨレバ攝護腺ノ半バ以下ハ骨盤出口前後徑以下ニアリト云ヘリ。

五、男子内尿道口ト會陰部中央トノ距離ハ(四〇―七五)平均六一・三耗ナリ。

六、男子内尿道口ト肛門前縁トノ距離ハ(三五―七〇)平均五六・九耗ナリ。(以上第百表參照)

第四章 膀胱子宮窩

第一項 窩底ノ骨盤ニ對スル位置的關係

一、骨盤ノ前後徑ニ對スル高サノ關係

骨盤ノ正中斷圖ヨリ以下ノ事項ヲ成人一六例、初生兒九例、小兒二例ニ就テ調査セリ。(以下窩底ト稱スルハ骨盤正中斷面圖ニ於ケル膀胱子宮窩ノ底部ノ點トス)。(本項ハ附表(十四)參照)

(イ)骨盤入口前後徑トノ垂線距離(窩底ヨリ此徑線ニ下セル垂線ノ長サ)(第百一表參照)

第 百 表

No.	肛門前縁ト攝護腺ノ直線距離(1)	攝護腺ノ高サ(イ)	攝護腺ノ最大ノ幅(ロ)	内尿道口ト會陰部中央トノ距離(5)	内尿道口ト肛門前縁トノ距離(6)	肛門前縁ト攝護腺ノ基底トノ距離(2)	直腸狀態	膀胱狀態	攝護腺ノ何レノ部ヲ骨盤出口前後徑ガ通過スルカ
40	43	30	23	70	70	75	著盈	盈	直上
41	40	25	24	75	65	48	虚	盈	中央
42	35	20	40	47	43	43	虚	著盈	中央
43	36	30	30	75	67	56	虚	虚	直上
44	22	19	26	40	35	34	盈	盈	下部アリ
45	30	23	20	50	50	35	虚	虚	全部アリ
46	50	20	23	72	18	10	盈(下部)	虚	10上

附 表 (十四)

番 號	膀胱子宮窩底ノ子宮及ビ膈ニ對スル位置 (尺度ハ耗)					膀胱子宮窩底ノ骨盤ニ對スル位置 (尺度ハ耗)			
	子方アル 宮ヘ幾カ 内口許ノ ヨリ距離 上ニ	子上離ニ 宮下アル 方ヘ幾カ 體ノ幾カ 界許ノ距 ヨリ	子方アル 宮ヘ幾カ 外口許ノ ヨリ距離 上ニ	前下ニ 腔方アル 窪ヘ幾カ 隆部許ノ ヨリ距離 上ニ	子レノ 宮部ニ 乃至在 ルカ何	骨ノ 盤垂線 入口距 前後徑 ト	骨ノ 盤狹部 前後徑 ト	骨何レ 盤軸ノ 前アル 後方ノ	骨ノカ 盤何レ ノ各部 前後徑 間
2	7下方	10下方	13上方	13上方	頸 中 央	30	40	10前方	αb
3	15下方	13下方	5上方	7上方	頸(下方)	52	24	11前方	bβ
4	不明	3上方	25上方	30上方	頸(上方)	50	20	3前方	bβ
5	不明	13下方	10上方	12上方	頸 中 央	60	13	7前方	βc
6	30下方	25下方	同高	3上方	外 口 部	57	13	4前方	βc
7	10下方	15下方	5上方	10上方	頸 下 1/3	28	50	軸上	αb
8	5下方	同高	15下方	20上方	頸 上 1/3	60	6	15前方	βc
9	同高	同高	20上方	23上方	頸 體 界	—	—	—	—
10	5下方	8下方	23上方	30上方	頸 上 1/3	53	18	22前方	αb
11	不明	13下方	15上方	20上方	頸 中 央	22	37	32前方	αb
12	不明	22下方	不明	10上方	頸 下 部	—	—	—	—
13	不明	3上方	23上方	28上方	頸體界稍上	45	27	3前方	bβ
14	10下方	10下方	20上方	17上方	頸 上 1/3	61	15	9前方	βc
15	14下方	7下方	13上方	15上方	頸 上 1/3	50	37	2後方	bβ
16	不明	10下方	不明	稍々上方	頸 上 部	—	—	—	—
17	不明	10下方	不明	稍々上方	頸 上 部	—	—	—	—
20	不明	16下方	6上方	3上方	前腔穹隆	50	19	25前方	bβ
24	不明	20下方	不明	上方	頸 上 部	—	—	—	—
25	不明	20下方	8上方	17上方	頸中央ヨ リ稍下	52	18	10前方	bβ
26	不明	不明	12上	20上方	頸 中 央	23	42	15前方	αb
27	4下方	6下方	11上方	20上方	頸 上 1/3	34	42	軸上	αb
29	不明	同高	不明	上方	頸 上 部	—	—	—	—
30	不明	10下方	不明	不明	頸 上 部	—	—	—	—
35	不明	22下方	5上方	同高	頸 下 部	—	—	—	—
36	25下方	23下方	5下方	5下方	膈上部(前穹 隆部以下5)	—	—	—	—
37	不明	17下方	13上方	不明	頸中央ヨリ モヤ、下方	—	—	—	—

31	不明	17下方	2下方	同高	前腔穹窿部	16	14	7前方	bβ
32	不明	不明	12下方	9下方	腔上 $\frac{1}{2}$	35	10	15前方	βc
38	不明	5下	10上方	不明	頸上中央ヨリ稍々上方	—	—	—	—
28	10下方	7下方	3下方	同高	前腔穹窿部	34	42	軸上	αb
53	—	12下方	8上方	2上方	頸下 $\frac{1}{2}$	6	19	3前方	α
54	—	7下方	18上方	12上方	頸上 $\frac{1}{2}$	直上	23	1前方	a
55	—	16下方	9上方	4上方	頸下 $\frac{1}{2}$	3	17	3前方	αα
56	—	6下方	10上方	6上方	頸上 $\frac{1}{2}$	7	15	2前方	αb
59	—	12下方	10上方	5上方	頸中央	2	19	3前方	αα
61	—	10下方	13上方	8上方	頸中央	2	17	1後方	αα
63	—	3下方	16上方	10上方	頸上部	10	12	2前方	αb
64	—	8下方	14上方	5上方	頸上 $\frac{1}{2}$	4	15	3前方	αα
65	—	—	—	—	—	—	—	—	a 上

小兒 (2例)		成人 (16例)							
一六耗 (31)	三五耗 (32)	窩底ガ本徑 線ニアル モノ	二一〇	平均四五・四耗 (二一・六一)	五一・六一	四一・五〇	三一・四〇	二一・三〇	離トノ垂線距 (耗) 例數 (No)
			八		一七	四	一	四	
			28		3	4		2	
			53		5	13		7	
			55		6	15		11	
			56		8		26		
			59		10				
			61		14				
			63		15				
			64						

第百一表 (附表(十四)参照)

第百二表 (附表(十四)参照)

小兒 (2例)		初生兒 (9例)			成人 (16例)							
一四	一〇	平均一六・九(一二・二三)	二三	一二・一九	平均二三・八耗(六一・五〇)	四〇・五〇	三一・四〇	二一・三〇	一一・二〇	六・一〇	窩底卜骨盤狹 部前後徑卜ノ 重線距離(耗)	例數 (No)
				八(28 53 55 56 59 61 63 64)		三(7 26 27)	三(2 11 15)	二(3 15)	五(4 10 14 20 25)			

以上ノ内（ハ）ニ就テ見ルニ成人及ビ小兒ニ於テハ初生兒ニ於ケルヨリモ、窩底ハ高位ニアルコト明カナリ。即チ成人ニテハ多クハ窩底ハ骨盤廣部前後徑ノ上下ノ部位ニ近ク存スレドモ、初生兒ニ於テハ骨盤入口前後徑ニ近キ部位ニアルモノ多シ。

二、窩底ハ骨盤軸ヨリ前後方ノ如何ナル方向ニアルカ

窩底ガ骨盤軸ヨリ前方ニ在ルモノ多シ。即チ第四百四表ニ見ルガ如シ。

第百三表

〔附表（十四）参照〕

	成人		初生兒		小兒	
	例數	No.	例數	No.	例數	No.
a	0		1	54		
aα	0		4	55. 59. 61. 64		
α	0		1	53		
αb	6	2. 7. 10. 11 26. 27	3	28. 56. 63		
bβ	6	3. 4. 13. 15 20. 25	0		1	31
βc	1	5. 6. 8. 14	0		1	32
計	16		9		2	

第百四表

〔附表（十四）参照〕

小兒 (2例)	初生兒 (7例)		成人 (16例)				
前方ニアルモノ 二例	後方ニアルモノ 一例	前方ニアルモノ 八例	後方ニアルモノ 一例	軸上ニアルモノ 二例	前方ニアルモノ 一三例 (平均一二・八耗) 前方		
(No. 31) 七耗	(No. 61) 一耗	(一一七) 平均二・四耗 (No. 28 53 54 55 56 59 63 64)	(No. 15) 二耗 (但シ膀胱盈ニシテ位置高シ)	(No. 7 27) 但シ (No. 27 張スハ脛タンボン挿入ノ爲著シク擴	二一三二	一一二〇	三一〇
					三 (10 11 20)	三 (3 8 26)	七 (2 4 5 6 13 14 25)
							距離(耗) 例數 (No.)

第二項 窩底ノ子宮及ビ後腹穹窿ニ對スル位置的關係

一、子宮内口ニ對スル關係

成人一一例ニ就テ見ルニ、窩底ガ子宮内口ヨリ下方ニ在ルモノ大多數ヲ占ム。只一例ニ於テ窩底ガ子宮内口ト殆ンド同高ナルヲ見ルノミ。窩底ガ之レヨリ上方ニアルモノハナシ。即チ第百五表ノ如シ。

第百五表 (附表(十四)参照)

窩底ガ子宮内口ヨリ下方ニアルモノ		窩底ト子宮内口ト が同高ナルモノ
兩者最短距離 (耗)	例 數 (No.)	
四—一〇	六 (278 101427)	一例 (No. 1) (成人)
一一—二〇	二 (315)	
二—三〇	二 (636)	
平均一二・五耗	一〇例(成人)	

第百六表 (附表(十四)参照)

窩底ガ子宮ノ頸體境 界ニ對シテノ位置	成人		初生兒	
	二五例	一例	同	同
窩底ガ下方ニアルモノ	例數 兩者ノ最短距離(例數)		同	
	六—一〇(九例)	三一五 (二例)		
	一一—一五(三例)	六一〇(七例)		
	一六—二五(八例)	一一—一六(三例)		
	平均 一四・三	平均 八・六耗		
窩底ガ上方ニアルモノ	二	三耗(No. 413)	〇	
	三	(No. 8924)	〇	
兩者同高ニアルモノ				

(備考) 子宮内口ハ正中斷面ヨリ窺知シ得ルモノハ甚ダ僅少例ニ過ギズ。故ニ之レガ檢案ニハ一々子宮頸體ノ境ヲ中心トシテ頸管ヲ露出シテ内口ノ位置ヲ確メタリ。

二、子宮頸體ノ境ニ對スル關係

窩底ガ子宮頸體境界ニ對スル高サノ關係ヲ見ルニ、成人ニ於テハ其レガ頸體境ヨリモ下方ニアルモノ大多數ナレドモンレガ上方ニアルモノ或ハ兩者同高ナルモノヲ稀ニ見タリ。其ノ詳細ハ第百六表ノ如シ。

初生兒及ビ小兒ニ於テハ凡テ窩底ガ子宮頸體境界ヨリモ下方ニアリ。(第百六表參照)

歐人ニ關シテハ膀胱子宮窩ハ子宮内口又ハ其ノ頸體界ノ附近トセラル。(Luschka, Solbetti, Jössel u. Waldeyer)。又 Jössel u. Waldeyer ニヨレバ二乃至八歳ノ女兒ニテハ成人ノ如ク窩底ハ子宮内口ノ高サニアリト云ヘリ。然ルニ予ノ例ニ於テハ成人及ビ初生兒共頸體境界ヨリハ稍々下方ニアルモノ多ク、又成人ニ於テ見ルニ子宮内口ヨリハ下方ニアルモノ多キヲ認ムルコト前記各表ノ示スガ如シ。

三、子宮外口トノ關係

窩底ガ子宮外口ヨリ上方ニアルモノガ、下方ニアルモノヨリモ多シ。(成人、初生兒共)(第百七表參照)

第百七表 (附表(十四)參照)

窩底ガ子宮外口ニ對ス位置	成人 一九例		初生兒 九例	
例數	兩者ノ最短距離		兩者ノ最短距離	
窩底ガ上方ニアルモノ	五—一〇 (四例)		六—一〇 (六例)	
	一一—二〇 (一〇例)		九—一一—一八 (三例)	
	二—一二五 (四例)		平均 一〇・九耗	
	平均 一三・四耗		三—二—一六耗 (No. 28, 31, 32)	
窩底ガ下方ニアルモノ	一 五耗 (No. 36)		三—二—一六耗 (No. 28, 31, 32)	

第百八表 (附表(十四)參照)

窩底ガ前腔穹隆ニ對シテノ位置	成人 二四例		初生兒 九例	
例數	兩者ノ最短距離		同	
窩底ガ上方ニアルモノ	三—一〇 (五例)		平均 六・三耗 (二—一二)	
	一一—二〇 (九例)		〇	
	二—二—一三〇 (四例)		〇	
	平均 一六・八耗		〇	
窩底ガ下方ニアルモノ	一—五耗 (No. 26)		〇	
	兩者同高ノモノ		九耗 (No. 32)	
兩者同高ノモノ		一 (No. 35)	一 (No. 28)	九耗 (No. 31)

四、前腔穹隆部トノ關係

窩底ガ前腔穹隆部ヨリ上方ニアルモノ大多數ヲ占ム。(成人、初生兒共)(第百八表參照)

Jössel u. Waldeyer ニヨレバ稀ニハ腹膜ガ前腔穹隆部ノ一部迄下降スルコトアリト云ビ、Virehow ニヨレバ稀ニハ窩底

ガ前腔穹窿ヨリ上方數種ニ達スル部ニ上ルコトアリト云ヘリ。子宮ト膀胱トノ接觸セル部分ノ高サニ關シテ *Lutzelka* ハ二種ナリト云ヘリ。D. 7. 6. 6. ハ初生兒二例ニ於テ何レモ窩底ガ前腔穹窿部又ハソレヨリ上方ニアルヲ見タリト云ヘリ。邦人ニ於テモ亦窩底ガ前腔穹窿部ヨリ下方ニ迄下降セルモノヲ稀ニ見ル。即チ成人二四例中一例 (No. 36) ニ於テ五耗下方ノモノ、小兒二例中一例 (No. 32) ニ於テ九耗下方ノモノヲ認ム。

五、子宮頸部及ビ腔ニ對スル關係

第百九表 【附表(十四)参照】

窩底ガ子宮頸部並ニ前腔穹窿部ニ對スル關係	成人 二五例	初生兒一例	小兒 二例
窩底ガ子宮頸ノ約中央部ニアルモノ	五例	二例 (No. 33)	一例 (No. 32)
窩底ガ子宮頸ノ下部ニアルモノ	五例	三例	〇
窩底ガ子宮頸ノ上部ニアルモノ	一三例	四例	〇
窩底ガ前腔穹窿部ニアルモノ	一例 (No. 20)	一	一例 (No. 31)
窩底ガ腔部ニアルモノ	一例 (No. 36)	〇	一例 (No. 32) 腔上部

窩底ガ子宮頸部及ビ腔ノ何レノ部分ニ在ルカト云フニ百第九表ノ如クニシテ、大多數ニ於テハ成人ニテモ初生兒ニテモ頸ノ比較的上部ニアリト云フベク、稀ニ前腔穹窿部及ビ腔部迄下降スルコトアリ。即チ成人二五例中各一例宛 (No. 20, 36) 之ヲ認ム。初生兒一〇例中一例 (No. 28) ニ於テハ前腔穹窿部ニアリ、小兒三例中各一例ニ於テ前腔穹窿部及ビ腔部ニ在ルヲ見ル。(第百九表參照)

歐人ノ記載ヲ見ルニ腹膜ノ膀胱子宮窩ニ於ケル翻轉部ハ或ハ子宮頸ノ下部トシ (Krause)、或ハ子宮頸部ノ上半部トセリ。(Bardleben)。又窩底ニ於テ腹膜ハ子宮頸ノ全部ヲ被包スト云ヘリ (Sobotta, coning)。概シテ云フ時ハ邦人ニ於ケルモノト大差ナシト云フベシ。

附記

窩底ノ腔口ヨリノ距離、會陰中央ヨリノ距離、內尿道口ヨリノ距離等ニ關シ歐人ノ記載アレドモ是等ニ就テハ石川氏が曩ニ予ト同ジ材料ニテ發表セルガ故ニ之レヲ略ス。又耻骨ノ各部ニ對スル距離ハ膀胱ノ虛盈ニヨリテ凡テ異ルモノナレバ之レヲ略セリ。而シテ窩ノ方向(地平傾度)ニ就キテハ歐人ノ記載アレドモ之レ亦計測上甚ダ困難ノモノナレバ之レヲ略セリ。即チ窩ハ入口ヨリ底ニ至ル迄眞直グノモノニアラザレバナリ。

附 表 (十五)

(成人及小兒)(耗)

種類	No.	年齢	性別	内 臍 皺 襞			外 臍 皺 襞				耻骨上縁トノ距離	耻骨上縁トノ距離	膀胱内容状
				有(+) 無(-)	幅	長さ	最大幅		長さ				
							右	左	右	左			
外臍皺襞兩側(+ノモノ) (一四例)	43	63	♂	(++)	10	50	30	15	100	60	175	70	稍盈
	45	36	♂	(++)	5	30	40	30	110	120	150	80	稍盈
	66	44	♂	(++)	15	30	20	25	40	60	不明	不明	虚
	70	47	♂	(-)	—	—	10	10	70	70	不明	不明	虚
	75	64	♂	(++)	10	不明	15	15	不明	不明	—	—	虚
	80	25	♂	(++)	20	60	5	5	30	30	不明	不明	虚
	81	41	♂	(++)	5	40	20	20	80	100	180	90	稍盈
	2	17	♀	(-)	—	—	20	20	80	70	100	30	稍盈
	11	28	♀	(+)	—	—	20	10	70	70	140	50	虚
	26	82	♀	(-)	—	—	8	5	30	30	不明	不明	稍盈
	9	26	♀	(++)	10	40	15	15	80	80	不明	不明	虚
	1	13	♀	(+)	—	—	30	10	60	60	100	40	虚
	31	1年8ヶ月	♀	(+)	—	—	10	10	40	35	60	30	虚
	67	7	♂	(-)	—	—	20	13	60	50	80	40	稍盈
外臍皺襞一側(-ノモノ) (九例)	42	24	♂	(-)	—	—	5	(-)	不明	—	—	—	盈
	44	25	♂	(-)	—	—	13	(-)	100	—	160	70	盈
	46	52	♂	(++)	5	30	5	(-)	不明	—	不明	不明	稍盈
	69	50	♂	(-)	—	—	(-)	10	不明	—	不明	不明	盈
	92	36	♂	(++)	12	60	(-)	30	—	30	不明	不明	虚
	16	(不詳)成女	♀	(++)	5	25	5	(-)	50	—	不明	不明	虚
	21	58	♀	(++)	5	50	(-)	25	—	60	不明	不明	虚
	22	59	♀	(-)	—	—	5	(-)	60	—	—	—	虚
	6	24	♀	不明	—	—	20	(-)	120	—	90	不明	虚
外臍皺襞兩側(-ノモノ)	41	45	♂	(+)	5	40	(-)	(-)					中等度盈
	74	20	♂	(-)	—	—	(-)	(-)					稍盈
	4	21	♀	(-)	—	—	(-)	(-)					盈
	8	25	♀	(-)	—	—	(-)	(-)					虚
	10	26	♀	(-)	—	—	(-)	(-)					中等度盈

(一一例)	12	34	♀	(一)	—	—	(一)	(一)					中等度 盈
	13	35	♀	(一)	—	—	(一)	(一)					盈
	14	35	♀	(++)	18	30	(一)	(一)					稍盈
	24	69	♀	(一)	—	—	(一)	(一)					虛
	29	44	♀	(一)	—	—	(一)	(一)					中等度 盈
	30	64	♀	(+)	—	—	(一)	(一)					中等度 盈
外臍皺襞不明 ノモノ (五例)	17	45	♀	(+)			不明						虛
	19	47	♀	(+)			不明						稍盈
	23	66	♀	(+)			不明						虛
	25	78	♀	(++)	15		不明						稍盈
	27	82	♀	(一)			不明						稍盈
合計三九例 備考 内臍皺襞(++)ハ著明ナルモノトス (+)ハ不著明ナルモノトス (一)ハ缺如セルモノトス 尺度ハ耗ヲ以テス													
外臍皺襞ノ長サハ遊離線ヲ測リ幅ハ根部ニ於テ測ル													

附 表 (十六)

(初 生 兒)

	No.	年 齡	性	内臍皺襞ノ發達狀態	幅	外 臍 皺 襞	
						右	左
外臍皺襞兩側存在セルモノ(八例)	56	軀 幹 長 (320)耗	♀	(一)		12	12
	28	生 後 4 日	♀	著 明		7	7
	33	生 後 2ヶ月	♀	(一)		15	10
	68	生 後 3ヶ月	♂	著 明		10	10
	47	軀 幹 長 (380)	♂	(一)		3	5
	48	生 後6ヶ月(380)	♂	著 明	3	5	5
	49	生 後 3日(250)	♂	著 明	3	5	3
	50	生 後 4日(320)	♂	著 明	3	3	3
外臍皺襞缺如又	51	生 後 6日(340)	♂	(一)		(一)	(一)
	52	生後 一ヶ月(330)	♂	(一)		(一)	(一)
	57	10ヶ月胎兒 (280)	♂	(一)		(一)	(一)
	58	生 後3ヶ月(370)	♂	(一)		不 著 明	不 著 明
	60	生後 6ヶ月(320)	♂	不 著 明		(一)	(一)

第百十表 (附表(十五)参照)

合 計	内 臍 皺 襞	男 (成人)		女 (成人)		小 兒	
		例數	番 號	例數	番 號	例數	番 號
一四例	著明ナルモノ(+)	九		五		〇	
		(43) (45) (66) (75) (41) (80) (81) (46) (92)	幅 (五〇—二〇耗)	(9) (16) (21) (14) (25)	幅 (五—一八耗)	一	
二一例	不著明ナルモノ(+)	五		五		二	
		(70) (42) (44) (69) (74)		(11) (30) (17) (19) (23)		(1) ♀ (31) ♀	
三三例	缺如セルモノ(-)	一		一		一	
		(2) (26) (22) (27) (4) (8) (10) (12) (13) (24) (29)		(67) ♂			
三八例		一七例		七例		一四例	

第五章 内臍並ニ外臍皺襞

内臍並ニ外臍皺襞ノ局所解剖學的所見ニ關シテハ何レノ解剖講本ヲ見ルモ頗ル簡單ナル記載アルノミナラズ、文献ニ徵スルモ亦然リ。予ハ偶々其ノ異常ナル幅ヲ有セルモノ、並ニ左右ノ差違著シキモノヲ認メタルヲ以テ、成人三六例(男一四例、女二二例)初生兒二一例、小兒三例計六〇例ノ硬化屍ニ於ケル調査ニヨリテ、未ダ先人ノ注意ヲ惹カザリシ點ヲモ認メタルヲ以テ爰ニ其ノ結果ヲ敘述スベシ(以下附表(十五)並ニ(十六)参照)

ハ不著明ノモノ (二三例)	62	10ヶ月胎兒 (300)	♂	不 著 明	不 著 明	不 著 明
	53	生後2ヶ月半(270)	♀	(-)	(-)	(-)
	54	10ヶ月胎兒 (300)	♀	不 著 明	不 著 明	不 著 明
	55	軀 幹 長 (320)	♀	不 著 明	不 著 明	不 著 明
	59	10ヶ月胎兒 (270)	♀	不 著 明	不 著 明	不 著 明
	81	10ヶ月胎兒 (310)	♀	(-)	(-)	(-)
	63	軀 幹 長 (280)	♀	不 著 明	不 著 明	不 著 明
	64	生 後 6日(300)	♀	不 著 明	不 著 明	不 著 明
二二例						

第一項 内 臍 皺 襞

一、有無乃至發達ノ程度ハ成人三五例、小兒三例、初生兒二一例ニ就テ見ルニ著明ナルモノ一九例、不著明ナルモノ一四例、缺如セルモノ二六例アリ。第百十表及ビ第百十一表ノ如シ。
 二、著明ナルモノ、幅及ビ長サハ成人ニ於テハ第百十二表ノ如シ、小兒並ニ初生兒ニ於テハ計測シ得ル如キ幅ヲ有セルモノトシテハ、初生兒三例ニ於テ三耗ヲ算セルモノアリシノミ。

第百十一表 (附表(十六)参照)

内 臍 皺 襞	男 (初生兒)		女 (初生兒)		合 計
	例數	番 號	例數	番 號	
著明ノモノ	四	48 49 50 68	一	28	五例
不著明ノモノ	二	62 60	五	54 55 59 63 64	七例
缺如セルモノ	五	62 57 58 47 51	四	53 61 56 33	九例
合 計	一一例		一〇例		二一例

(度)

第百十二表 (附表(十五)参照)

(度)	No.	計(例數)
(5-10)	43. 45. 81. 9. 46. 16. 21. 41	9
(11-20)	16. 80. 92. 14. 25	5
(25-40)	45. 66. 81. 9. 46. 16. 41. 14	1
(50-60)	43. 80. 92. 21	4
		19

Inschke ニヨレバ、長サ一二糎ニ達セルモノナリト云ヘルガ、予ノ例ニテハ最長六糎ヲ算セルノミナリ。

三、膀胱ノ虛盈トノ關係ニ於テハ成人及ビ小兒合計三七例ニ就キテ見ルニ、内臍皺襞ハ膀胱ガ盈乃至中等度盈時ニハ凡テ缺如セリ。虚時ニ至レバ著明ノモノヲ多數例ニ認ム。(第百十三表参照) Henke モ膀胱盈時ニハ此ノ皺襞ハ現ハレズト稱セリ。

四、性ノ關係ハ一般ニ男ニハ女ヨリモ著明ナルモノ比較的多キガ如シ、即チ第百十四表ノ如シ。

五、年齢的關係ハ既ニ述ベタルガ如ク、内臍皺襞ハ膀胱ノ虛盈ニヨリ、恐ラクハ又男女ノ關係等ニヨリテ影響アリ。故

第百十三表 [附表(十五)参照]

合 計	缺如セルモノ	不著明ナルモノ	著明ナルモノ	内 臓 皺 襞	
				例數	盈及ビ中等度盈
九 例	九	○	○	番 號	稍 盈
				42 44 41 4 10 12 13 29 30	盈
一二例	五	一	六	番 號	虛
				2 61* 14 26 27	盈
一六例	五	四	七	番 號	虛
				70 22 24 19 8	盈
三七例	一九例	五例	一三例	合 計	

(* 印ハ小兒)

第百十四表 [附表(十五)参照]

合 計	缺如セルモノ	不著明ナルモノ	著明ナルモノ	内 臓 皺 襞	
				例數	男 (成人)
一四例	五		九	番 號	女 (成人)
				70 42 44 69 74	盈
二二例	一一	五	五	番 號	小 兒
				2 26 22 4 8 10 12 13 27 24 29	盈
三 例	一	二		番 號	合 計
				67(♂) 31(♀)	一四例
三八例	一七例	七例	一四例	合 計	

ニ年齢的關係ヲ知ラレント欲セバ、是等ノ點ヲモ考慮セザルヲ得ズ。之レヲ參酌シテ見ルニ成人ハ小兒及ビ初生兒ニ比シ著明ナルモノ比較的多シ。而シテ年齢的ニハ大差ナキヲ知ル。(第百十五表並ニ第百十六表参照) (以上ノ表ニ於テハ特ニ比較ニ便センガ爲メ膀胱ガ虛ニ近キ例ノミニ就テセリ)。

第 百 十 五 表

計	缺如	不著明	著明	成人 (膀胱虛乃至稍盈)		小兒	初生兒
				番 號	例 數		
70 22 8 24 2 74 26 27	11 17 23 19	66 75 80 92 9 16 43 45 81 46 14 21 25	女 男 女 男 女 男 女 男	一 〇 六 二 四 〇 五 八	三 一 二 五	二 一 九 七 五	

第 百 十 六 表

計	缺如	不著明	著明	年 齡	
				番 號	例 數
8 2 24	11	80 92 9 45 14	5	(一七—三九)歲	(四〇—五九)歲
70 22	17 19	66 81 46 21	4	(六〇—八二)歲	
24 26 27	23	75 43 25	3		

第二項 外 臍 皺 襞

一、有無並ニ發達程度ニ關シテハ成人、小兒、初生兒共兩側存在セルモノ比較的多シ。概シテ女ニ於テハ男ニ比較シテ
 缺如セルモノ多キガ如シ。(第百十七表及第百十八表參照)

第百十七表 【附表(十五)參照】

合 計	外 臍 皺 襞		兩側存在セルモノ		一側缺如セルモノ		兩側缺如セルモノ	
	例數		番 號		例數		番 號	
男 (自二四歲至六四歲)	二	三	二	七	(41) (74)	(42) (44) (46)	(69) (92)	(45) (43) (66) (70) (75) (80) (81)
	九	三	一	四	(14) (24) (129) (30) (4) (8) (10) (12) (13)	(16) (6) (22)	(21)	(2) (11) (26) (9)
女 (自一七歲至八二歲)	三	一	三	一	(1) (31) (67)			
小兒 (自一年八ヶ月至三歲)	六	三	一	一				
合 計	一四例	九例	一四例	一四例	一四例	一四例	一四例	一四例

二、左右兩側ノ比較ヲ見ルニ一般ニ左側ハ缺如セル率大ナリ。即チ成人及ビ小兒ニ於テハ其ノ全數ノ三分ノ二ハ缺如セル例トス。(第百十七表參照)又右側ハ左側ヨリモ皺襞ノ幅ガ廣ク發達著明ナルモノ多シ。初生兒ニ於テハ斯カル關係ハ見出ス能ハズ。(第百十九表參照)

第百十八表 [表附(十六)參照]

外 臍 皺 襞	男			女			合 計
	例數	番 號	例數	番 號	番 號	合 計	
兩側著明ノモノ	五	68 47 48 49 50	三	56 28 33		八例	
兩側不著明ノモノ	一	58 62	五	54 55 59 63 64		七例	
兩側缺如セルモノ	四	51 52 57 60	二	53 61		六例	
合 計		一一例		一〇例		二二例	

第百十九表 [附 表 (十五) 參照]

(皺襞ノ幅)	No.
右ノ左	12例 43. 45. 11. 26. 1. 67. 42. 46. 16. 22. 6
左ノ右	4例 66. 19. 92. 21
右ノ左	7例 70. 75. 70. 81. 2. 9. 31*
合 計	23例

(*印ハ初生兒及ビ小兒)

三、皺襞ノ幅及ビ長サニ關シテハ左ノ如シ。即チ(イ)皺襞ノ幅(左右ノ内最モ廣キモノヲ以テセリ)ニ就テ見ルニ成人及ビ小兒ニ於テハ最大四〇耗ニ達セリ。兩側存在セルモノニテハ幅モ廣キモノ多ケレドモ、一側ノミ存在セルモノニテ二五乃至三〇耗ヲ算セルモノモアリ(No. 92, 21)。最モ著明ナル例(No. 45)ニテハ右側四〇耗、左側三〇耗ヲ算セリ。(第百二十表及ビ附表十五參照)

(5-10)耗	9	70. 80. 46. 69. 16. 22	26. 31* 42
(11-20)耗	8	75. 81. 2. 11. 9. 67.* 44	
(21-40)耗	6	43. 45. 66. 1.* 92. 21	
計	23例		(小兒、成人)

(左右ノ中最長ノモノヲ以テス) (*印小兒)

第百二十表及ビ附表十五參照

(ロ)、皺襞ノ長サハ成人及ビ小兒ニ在リテハ三〇乃至一二〇耗ノ間ニアリ。(但シ左右ノ内最モ長キモノニ就テ云フ)第百二十一表ノ如シ、左右ノ差ハ著シカラズ。(第百二十二表參照)

(ハ)初生兒ノ外臍皺襞ノ幅ハ比較的廣キモノアリ、即チ

八例中三例ハ一〇乃至一五耗ヲ算ス。(第百二十二表参照)

第百二十一表 【附表(十五)参照】

	(30—50)耗	4例	80. 26. 92. 16
成人	(51—100)耗	10例	43. 66. 70. 81. 2. 11. 9. 22. 44. 21
	(101—120)耗	2例	45. 6
小兒	(25—60)耗	6例	1. 31. 67
合 計		22例	

(左右ノ内最長ノセヲ引ケル)

第百二十二表 【附表(十五)参照】

右>左	8例	43. 2. 31.* 67.* 44. 16. 22. 6
右<左	5例	45. 66. 81. 92. 21
右=左	6例	70. 80. 11. 26. 9. 1*

第百二十三表

【附表(十六)参照】

外臍皺襞巾		例數	番 號		性 別	
(三一七)耗		五	49 28 47 48 50		女	男
(一〇—一五)耗		三	33 68 56		女	男
					二例	一例

外臍皺襞ノ長サニ關シテハ Inschka ニヨレバ成人ニテハ數糶、稀ニハ臍ニ達スルモノアリトセリ。予ノ例ニテハ最長一二糶トス。然シ臍ニ達セルモノハ之レヲ認メズ。其ノ幅ニ關シテハ F. Dixon ニヨレバ著明ナル時ハ一二五乃至二五〇耗ニ達セルモノヲ見タリト云ヘリ。予ノ例ニ於テハ成人ニテ最大ナルハ四〇耗ヲ算セルモノトス。

四、皺襞ハ耻骨聯合上縁ト臍トノ間ニテ如何ナル部位ニ在ルカト云フニ、成人及ビ小兒ニ於テハ耻骨聯合上縁ヨリ臍ニ

向ツテ兩者ノ半バ以上ニ達スルモノ九例中四例ニ見タリ。其他ノモノハ第百二十四表ノ如シ。

上方臍ニ直シテ九例中			
ニ達スルモノ	1例	No. (40)	
ニ達スルモノ	3例	No. (81, 31, 67*)	
ニ達スルモノ	4例	No. (43, 1, 11, 44)	
以下ノモノ	1例	No. (2)	

第百二十五表
[原稿(出)表]

ハ成人ニ比較シテ其ノ皺襞ノ幅ガ比較的大ナルモノアリト云フベシ。(第百二十五表、第百二十六表参照)

第百二十六表

第百二十五表			
	成人(膀胱虚及ビ稍盈)		小兒 初生兒
	番	號	
側兩存在セルモノ	11 9 26 2 81 45 66 81 70 75 43	一一	三
一側缺如セルモノ	22 6 16 21 92 46	六	七
兩側缺如セルモノ	8 24 14 74	四	六
	女 男	女 男	女 男
	三 一	四 二	三 一
	女 男	女 男	女 男
	三 一	四 二	三 一
	女 男	女 男	女 男
	三 一	四 二	三 一

年 齡		番 號		番 號		番 號		番 號	
(一七—三九)歲		(四〇—五九)歲		(六〇—八二)歲		(一七—三九)歲		(四〇—五九)歲	
計	一〇	六	四	一〇	六	四	一〇	六	四
兩側存在セルモノ	11 9 2 80 45	5	81 66 70	3	26 43 64	3	11 9 2 80 45	5	81 66 70
一側缺如セルモノ	6 92	2	22 21 46	3			6 92	2	22 21 46
兩側缺如セルモノ	8 14 74	3	24	1			8 14 74	3	24

予ハ初生兒(生後二ヶ月)(No. 33)ニ於テ紙ノ如キ菲薄ナル膜狀ヲナセル外臍皺襞ガ腹壁トノ間ニ深キ裂隙狀ノ囊ヲ造レルヲ見タリ。小兒三例ニ於テモ殆ンド亦同様ナル所見ヲ呈セリ。斯カル囊狀ヲ形成セルモノハ成人(No. 44)ニモ見タ

レドモ前者ノ如キ腹壁ニ壓平セラル、コトナクシテ其ノ内腔ハ漏斗狀ナレドモ廣クシテ、其ノ内ニ小腸系蹄ノ一部ヲ容レタルヲメ認タリ。D. Hecchiニヨレバ一例ニ於テ小腸系蹄ヲ容レタル深キ囊狀ヲ形成セルモノヲ見タリト云ヘリ。

總括並ニ考按

以上内外臍皺襞殊ニ外臍皺襞ニ於ケル特有ナル所見トシテハ(一)女ニ於テハ男ニ於ケルヨリモ缺如乃至不著明ナルコト屢々ナルコト。(二)一般ニ左側ハ右側ヨリモ缺如セルコト乃至其ノ幅モ狹キコト。(三)小兒ニ於テ左右共著明ニ發達セルモ成人一テハ種々ノ狀態ヲ示スニ至ルコト等ナリ。抑々胎生期ニ於ケル臍動脈ハ後來閉鎖萎縮スル時ハ外臍韌帶トシテ臍及ビ骨盤外壁側トノ間ヲ連絡セル韌帶トナリテ永ク存スルニ至リ其ノ緊張ト下腹壁ノ外方ニ向ツテノ呼吸乃至腸内容ニヨル内壓トハ相俟ツテ外臍皺襞ノ形成ヲ促スモノナルベシ。然レドモ此ノ外臍韌帶モ腹腔内臓ノ爲メ壓迫セラレテ遂ニハ薄弱トナリテ其ノ緊張力モ減少シ、爲メニ之レニ伴ツテ外臍皺襞モ漸次退化シテ甚ダシキハ殆ンド之レヲ缺如セルモノヲ見ルガ如キ狀態ヲ呈セルニ非ラザルカ。而シテ偶々此ノ韌帶ノ比較的強韌ニシテ、然カモ下腹壁ノ比較的薄弱ナルモノニアリテハ却ツテ著明ナル幅ヲ有セル皺襞ヲ形成スルニ至ルモノト思惟セラル。飯島氏ガ胎兒及ビ初生兒二九例ノ調査ニヨリテ右側臍動脈ガ左側臍動脈ヨリ太シト發表セルガ、予ノ外臍皺襞ニ於テモ左側ヨリモ右側ニ發達乃至存在セルモノ多キハ決シテ偶然ナル一致ニアラザルモノト信ズ。且ツ又鼠蹊部ヘルニヤガ一般ニ右側ニ多キコトハ既ニ外科成書ニモ記載セラル、處ニシテ吾人外科醫ガ臨床上ニモ常ニ認ムル處ナルガ、之亦右側外臍皺襞ノ幅ガ著明ニ發達セル事實ト同一原因ニヨルニアラザルナキカ疑ナキ能ハズ。又予ガ臨床的ニ外鼠蹊ヘルニヤノ手術ニ當リ、其ノヘルニヤ門ノ大ナルモノニ於テ外臍皺襞ト思ハル、前腹壁腹膜ノ幅廣キ皺襞ニ遭遇スルコトアリタリ。

終リニ臨ミ恩師足立教授ノ懇篤ナル御指導ト嚴密ナル御校閲ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表ス。

(昭和二年四月二十九日脱稿)

Literaturverzeichnis

- 1) **H. Barkow**, 1858, Anatomische Untersuchungen über die Harnblase des Menschen nebst Bemerkungen über die männliche und weibliche Harnröhre. Breslau.
- 2) **K. V. Bardeleben**, 1888, Über die Lage der weiblichen Beckenorgane. Verhandlung der Anat. Gesellschaft auf der zweiten Versammlung in Würzburg. 1888. Anat. Anzeiger, 8. 535-572.
- 3) **W. Bodenhamer**, 1888, Observation on the normal sacculi of the anal canal. The Medical Record, Vol. 33, P. 569-573.
- 4) **Cunningham**, 1915, Cunningham's text-Book of Anatomy. Edit. 4, Edinburg, Glasgow and London.
- 5) **J. Disse**, 1892, Untersuchung über die Lage der menschlichen Harnblase und ihre Veränderung im Laufe des Wachstums. Anat. Hefte, Bd. I, S. 3-72.
- 6) **Derselbe**, 1902, Harn- u. Geschlechtsorgane. Bardeben's Handbuch der Anatomie der Menschen, VII. Bd. Jena. S. 113-133.
- 7) **F. Dixon**, 1899, The form of the empty bladder. Anat. Anzeiger, Bd. 15, S. 405.
- 8) **Derselbe**, 1902, The peritoneum of the pelvic cavity. Journ. of Anat. a. Physiol., Vol. 36, S. 127-141.
- 9) **M. Flesch**, 1888, Bemerkung über die Beziehungen des Bauchfells zur vorderen Wand der Harnblase. Anat. Anzeiger, S. 337.
- 10) **G. Garson**, 1878, Die Dislocation der Harnblase und des Peritoneums. Arch. f. Anat. u. Physiol. Anat. Abt., S. 171-179.
- 11) **羽太銳治**, 大正六年, 日本人ノ輸尿管ノ長サ及ビ輸尿管口ニ就テ. 日本泌尿器科學會雜誌 第六卷, 第一號, 第三號.
- 12) **C. Hasse**, 1910, Die normalen Lagen der weiblichen Beckenorgane. Arch. f. Anat. u. Physiol. Anat. Abt., S. 23-27.
- 13) **J. Hyrtl**, 1882, Topographische Anatomie. Aufl. 2, Wien.
- 14) **飯島尙**, 大正十三年七月, 左右臍動脈ノ差異並臍靜脈位置ニ就テ. 近畿婦人科學會雜誌, 第七卷, 第二號.
- 15) **石川信男**, 大正十二年十二月, 日本女子骨盤臟器ノ解剖學的研究, (第五報告) 女子骨盤臟器ノ局所解剖學的研究, 近畿婦人科學會雜誌, 第六卷, 第四號.
- 16) **Jonneco, Th.**, 1895, Traite d'anatomie humaine publ. par P. Poirier. Tom. IV, Paris, P. 349-376.
- 17) **Jössel u. Waldeyer**, 1899, Lehrbuch der topographische-chirurgische Anatomie. Teil, 2, Bonn.
- 18) **O. Kohlrausch**, 1854, Zur Anatomie u. Physiologie der Beckenorgane. Leipzig.
- 19) **A. Kölliker**, 1882, Über die Lage der weiblichen inneren Geschlechtsorgane. Bonn.
- 20) **W. Krause**, 1879, Handbuch der menschlichen Anatomie. Bd. 2, Aufl. 3, Hannover.
- 21) **A. Lichtenberg u. F. Völcker**, 1905, Die Form der menschlichen Harnblase. Verhandlung der Anat. Gesellschaft auf der 19. Versammlung. 1905. Anat. Anzeiger. Bd. 27, Ergänzungsheft, S. 206. 210.
- 22) **Luschka**, 1863, Die Anatomie des Menschen Bauches. Tübingen.
- 23) **Derselbe**, 1873, Die Lage der Bauchorgane des Menschen. Tübingen.
- 24) **F. Merkel**, 1900, Die pars ampullaris recti. (Topographische Anatomie). Ergebnisse der Anat. u. Entwicklungsgesch., Bd. 10, S. 524-546.
- 25) **K. Nagel**, 1896, Die weiblichen Geschlechtsorgane. Bardeleben's Handbuch der Anatomie des Menschen. Bd. 7, 1-15.
- 26) **岡本規矩雄**, 大正七年五月. 腸管計測ニ就テ, 附邦人腸管ノ長サ, 中外醫事新報 第五百二十號.
- 27) **W. J. Otis**, 1887, Demonstration des menschlichen Mastdarm bei elektrischer Beleuchtung, Verhandlung der ersten Versammlung der Anat. Gesellschaft. Leipzig, Anat. Anzeiger, Bd. 2, S. 408.
- 28) **A. M. Paterson**, 1909, The form of the rectum. Journ. of Anat. and Physiol., Vol. 43, p. 127-132.
- 29) **Rauber-Kopsch**, 1907, Lehrbuch der Anatomie. Aufl. VII Leipzig.
- 30) **C. V. Samson**, 1892, Einiges über den Darm, insbesondere die Flexura Sigmoides, Arch. f. Klin. Chirurg., Bd. 44, S. 146-221.
- 31) **O. Schülze**, 1903, Topographische Anatomie. Lehmann's medicinische Atlanten, Bd. 1.
- 32) **M. Schüttloff**, 1903, Abnormer Tiefstand des Bauchfells im Douglas'schen Raume und Senkung der Beckeneingeweide beim Manne. Arch. v. Anat. n. Physiol. Anat. Abt., S. 122-136.
- 33) **H. Sellheim**, 1900, Topographischer Atlas zur normalen und pathologischen Anatomie des weiblichen Beckens. Leipzig.
- 34) **J. Sobotta**, 1904, Lehmann's medicinische Atlanten. Grundriss der deskriptiven Anatomie des Menschen. München.
- 35) **杉田定一**, 大正三年十一月, 本邦人ノ腸管ノ長サニ就テ. 東北醫學會會報. 第七十六卷, 第七十七號.
- 36) **J. Symington**, 1912, Further observations of the rectum and anal canal. The Journ. of Anat. and Physiol., Vol. 46, P.

- 238-306. 37) **L. Testut**, 1912, Traite d'anatomie, Tom. IV, P. 238-260. Paris. 38) **A. R. Thompson**, 1917, The form of the urinary bladder. The Journ. of Anta. a. Physiol., Vol. 51, P. 364-374. 39) **E. P. Traeger**, 1897, Über abnormen Tiefstand des Bauchfells im Douglas'schen Raume beim Manne. Arch. f. Anat. u. Entwicklungsgesch. Anat. Abt., S. 316-332. 40) **M. Tschaussov**, 1887. Über die Lage des Uterus. Anat. Anzeiger., Bd. II, S. 538-548. 41) **W. Vogt**, 1921. Über die Altersenkung der menschlichen Baueingeweide. Anat. Anzeiger, Ergänzungsheft zum, Bd. 185-193. 42) **W. Waldeyer**, 1892. Beiträge zur Kenntnis der Lage der weiblichen Beckenorgane (nebst Beschreibung) eines frontalen Gefrierschnittes des Uterusgravidus in Situ). Benn. 43) **O. Zuckerkindl**, 1890, Beiträge zur Lehre von den Brüchen im Bereiche des Douglas'schen Raums. Zeitschr. f. Chirurgie, Bd. 31. S. 590-808.

The Examination About The Topographical Anatomy Of The Pelvic Viscera In Japanese.

By

Dr. C. CHIBA.

From the Anatomic Institute of the Kyoto Imperial University (Director: Prof. Dr. B. Adachi)

Conclusion.

The writer of this thesis have investigated on the topographical anatomy about the pelvic viscera upon 102 cases of the Japanese subjects which have been hardened previously in situ by a solution of 10% formalin spirit as follows:

74 cases of Adult	(♂, 34 and ♀, 40)
5 „ „ Child	(„ 1 „ „ 4)
22 „ „ Baby	(„ 11 „ „ 11)
1 „ „ Foetus	(„ 0 „ „ 1)

Among these subjects, in male 10 cases of baby, 7 cases of adult, and in female 1 case of foetus, 9 cases of baby, 2 cases of child, and 19 cases of adult have been treated with the median section of the pelvis.

The writer have examined the facts of the rectum, urinary bladder, and the region of the pelvic peritoneum (rectouterina pouch, recto-vesical pouch, vesico-uterina pouch) which turns over, and the plica umbilicalis lateralis and

medialis. A special attention was given to the condition when the rectum and the urinary bladder were filled or empty in examining the measurement of the pelvic viscera.

In comparing the result of the writer with that stated by the Europeans, there is no great difference, but many of these statements have omitted to show the number of cases examined, or of rare number if stated, or the attention was not given over the condition of the rectum or the urinary bladder, or the measurement differ with that of the writer. Therefore, it would be somewhat difficult to find ethnical difference between the Europeans and the Japanese.

Now the writer will particularize the remarkable points passed unnoticed by the anatomists until the present day, and the difference between the previous records and the writer's research.

1. The terminal point of the mesentery of the pelvic meso-colon (S-rhomanum) or upper end of the rectum of the adult, 15 cases out of 42 cases starts from the height between the II and III sacral vertebra. The said relation was examined separately upon both sex but most of them were in the similar condition. In 2 cases of child it was situated at the center of the first sacral vertebra and its lower end, and in 11 cases out of 19 cases of baby, it was situated at the height of the sacral promontory.

2. In examining the frontal-curve of the rectum of 45 cases of baby, child, and adult, the upper part of the rectum curves to the left direction of the middle line. Answering to the question of the number of its frontal curves in the adult, there are two curves (18 cases out of 24 cases), single curve (5 cases out of 24 cases), three curves (1 case out of 24 cases). The rectum of baby is not always straight as stated formerly, but some of them already form sagittal and frontal-curve. For example, in frontal curve 7 cases out of 19 cases form single curve while 5 cases out of 19 cases are curveless. So, the latter number is less than the former.

3. In most of baby, child and adult, the plica umbilicalis laterals exist in both the left and the right side. In examining the difference between that of the male and female, the latter defect it in such large percentage as 9 cases defect out of 17 cases, while only 2 cases defect out of 14 cases in male. Again, in comparing the left side and the right side in 9 cases of both sex, in 3 cases the right side defect, and in 6 cases the left side defect. Generally, the right side fold is more improved and larger in width compared with that of the left side. As a remarkable case, the writer has found the right side's width of 40 millimeter, and 120 millimeter in its length.

附圖說明

I 附圖說明直腸額面上ノ彎曲圖(も縮圖)

第一圖 (No. 29 16L.) 不著明ナルニ彎曲。

第二圖 (No. 49 21L.) 著明ナルニ彎曲。

第三圖 (No. 27 9 82L.) 不著明ナルニ彎曲。

第四圖 (No. 31 8 生後6日田ノ初生兒) 一彎曲(直腸橫皺襞著明)。

第五圖 (No. 60 8 生後6ヶ月ノ初生兒) 不著明ナルニ彎曲。

II 骨盤(内臓)ノ正中斷圖(自第六圖至第十圖も縮圖)

第六圖 (No. 5 8 21L.) 膀胱形狀異常ヲ示ス。

第七圖 (No. 11 8 1L.) 直腸強盈狀態ヲ示ス。

第八圖 (No. 32 9 小兒) 膀胱形狀及ドウグラス氏高位位置ヲ示ス。

第九圖 (No. 40 8 40L.) 直腸、膀胱共ニ盈トス。

第十圖 (No. 45 8 36L.) 腸直膀胱高ハ其位置甚ダ低シ。

第十一圖 (No. 49 8 生後3日田ノ初生兒) 直腸橫皺襞ノ痕跡ノ如キモノアリ。

第十二圖 (No. 54 8 10ヶ月胎兒) 直腸ハ殆ンド眞直ナリ。

第十三圖 (No. 65 9 6ヶ月胎兒) 直腸ハ眞直ナリ。

III 直腸内腔ノ「ギブス」模型圖

第十四圖 (No. 11 9 28L.) (内容積二七〇ㄔ) 額面彎曲ヲ形成セズ。横皺襞著明。

第十五圖 (No. 20 9 55L.) (内容積二〇〇ㄔ) 下部横皺襞ハ螺旋狀乃至ツ字狀ヲナス。

第十六圖 (No. 51 8 生後6日田ノ初生兒) (側面)横皺襞著明ニ現ル。

IV 膀胱内腔ノ「ギブス」模型圖

第十七圖 (L.) 10 9 26L.) 胡桃形但シ中等度盈、内容積四〇ㄔ、後下

面ヨリ見ル。

第十八圖 (No. 41 8 54L.) 胡桃形但シ中等度盈、内容積四〇ㄔ・前下面ヨリ見ル。

第十九圖 (No. 13 9 35L.) 胡桃形但シ盈、内容積一二〇ㄔ・後下面ヨリ見ル。

第二十圖 (No. 49 21L.) 不正四面體但シ盈、内容積一一三端・前下面ヨリ見ル。

第二十一圖 (No. 49 8 49L.) 不正四面體但シ盈、内容積一八〇端・前下面ヨリ見ル。

第二十二圖 (No. 59 21L.) 扁平ニ近キ三角體但シ虚、内容積一〇ㄔ・前下面ヨリ見ル。

第二十三圖 (No. 9 8 36L.) 扁平ニ近キ三角體・但シ内容積一五ㄔ・前面ヨリ見ル。

第二十四圖 (No. 42 8 34L.) 橢圓形但シ盈、内容積二八〇ㄔ・後下面ヨリ見ル。

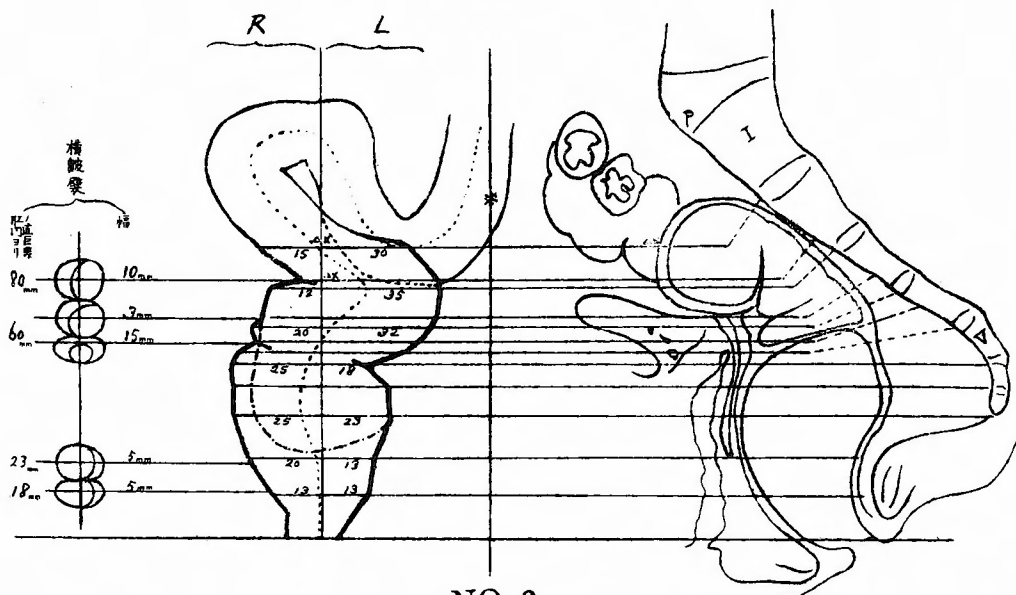
第二十五圖 (No. 22 9 49L.) 不正四面體但シ強盈、内容積三五〇ㄔ・後下面ヨリ見ル。

第二十六圖 (No. 44 8 25L.) 胡桃形但シ盈、内容積一二〇ㄔ・前下面ヨリ見ル。

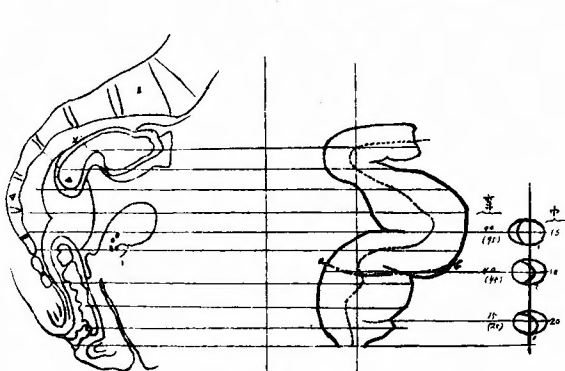
第二十七圖 (No. 27 9 82L.) 横紡錘形但シ稍盈、内容積一八ㄔ・前下面ヨリ見ル。

第二十八圖 (No. 26 9 82L.) 横紡錘形但シ虚、内容積八ㄔ・後面ヨリ見ル。

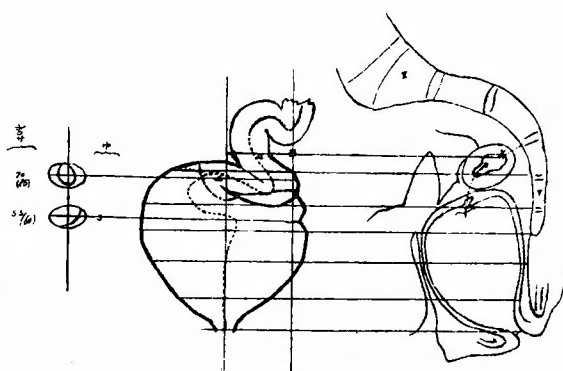
第二十九圖 (No. 32 9 小兒) 瓜核形但シ全ク虚、前面ヨリ見ル。



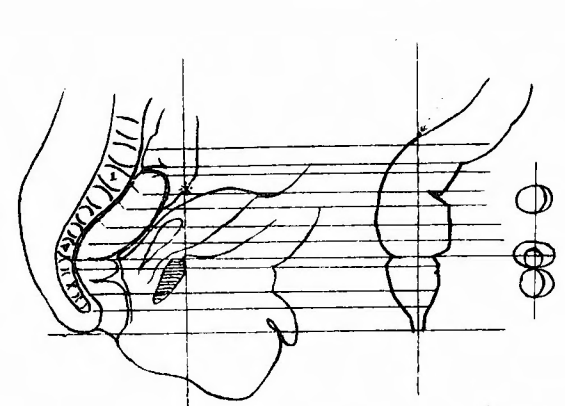
NO. 2.



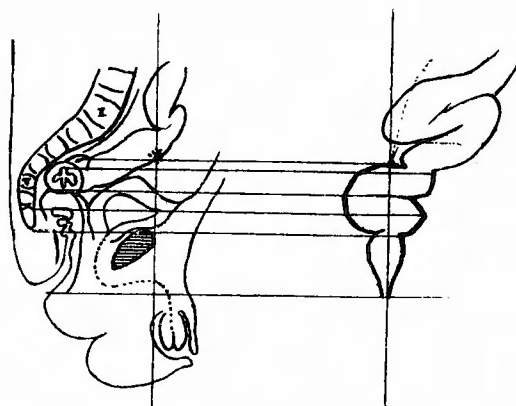
NO. 4.



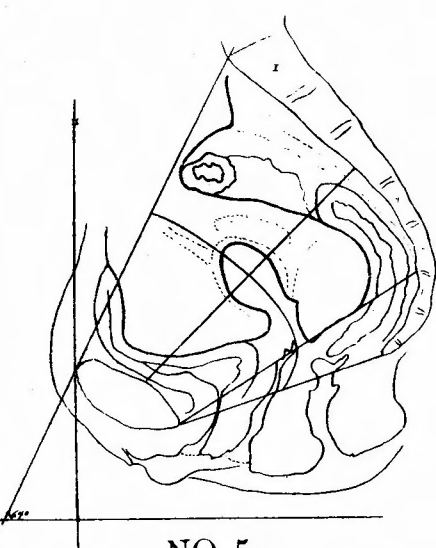
NO. 27.



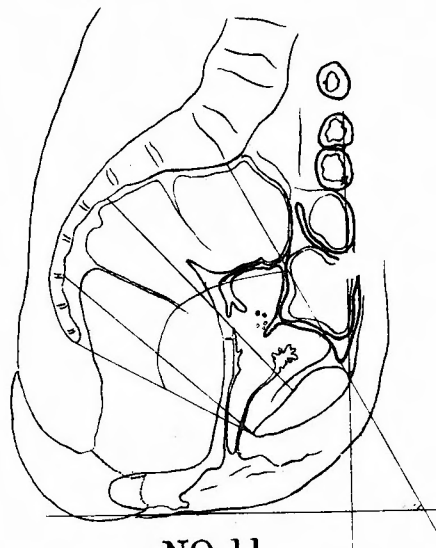
NO. 51.



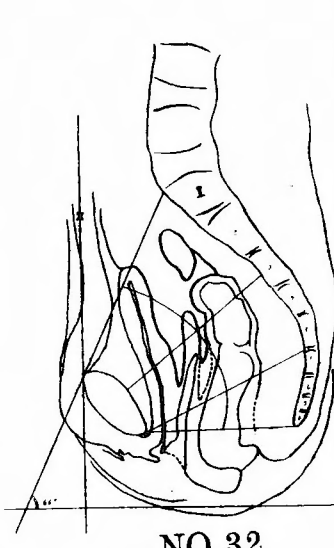
NO. 60.



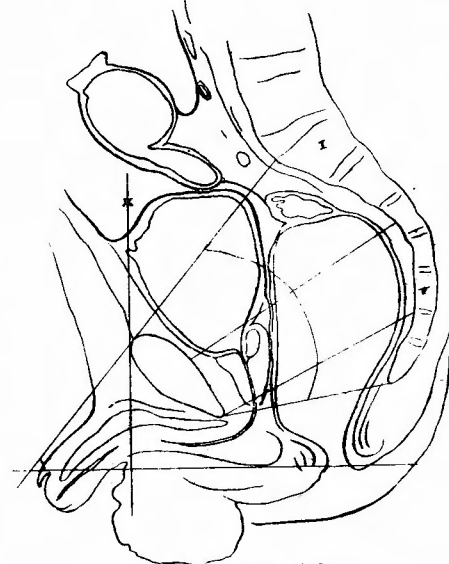
NO. 5.



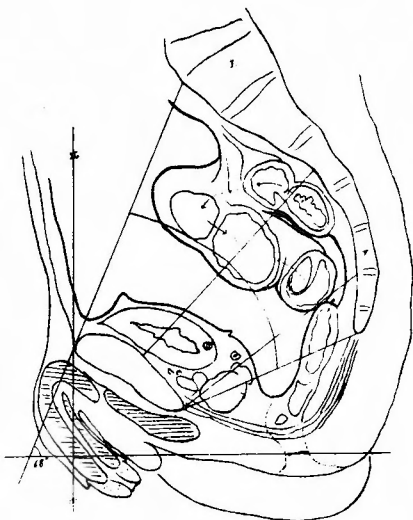
NO. 11.



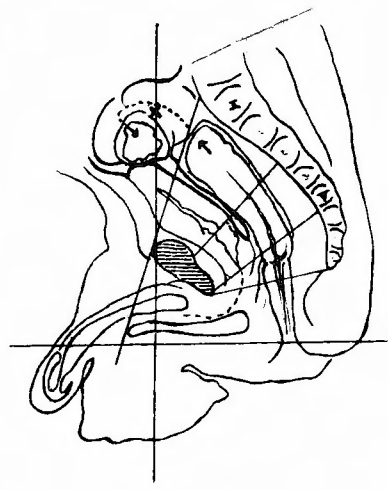
NO. 32.



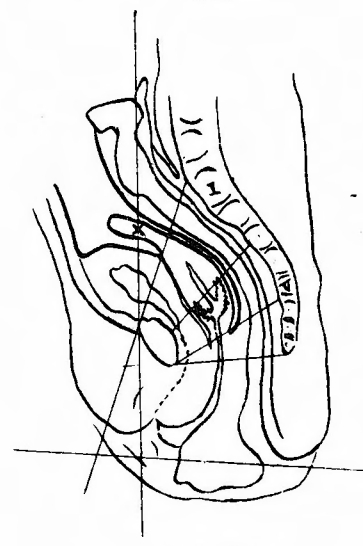
NO. 40.



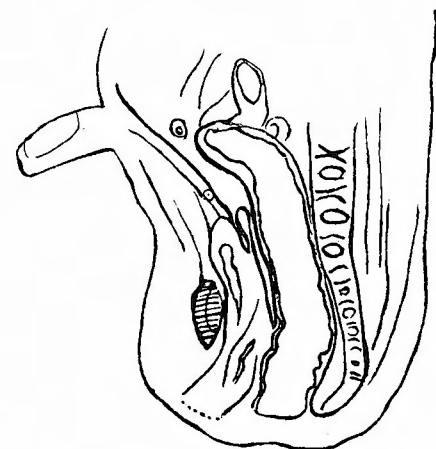
NO. 45.



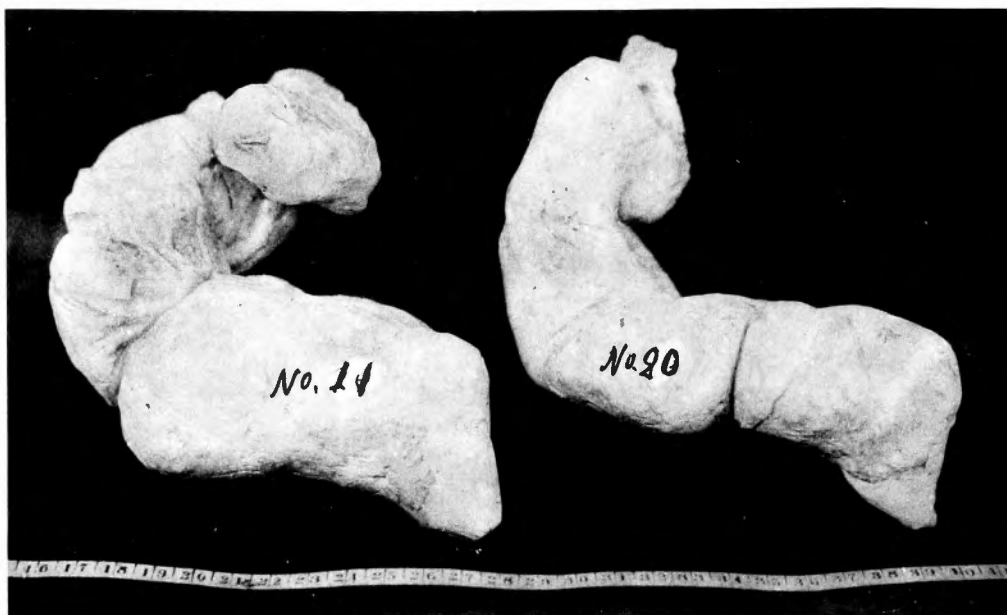
NO. 49.



NO. 54.

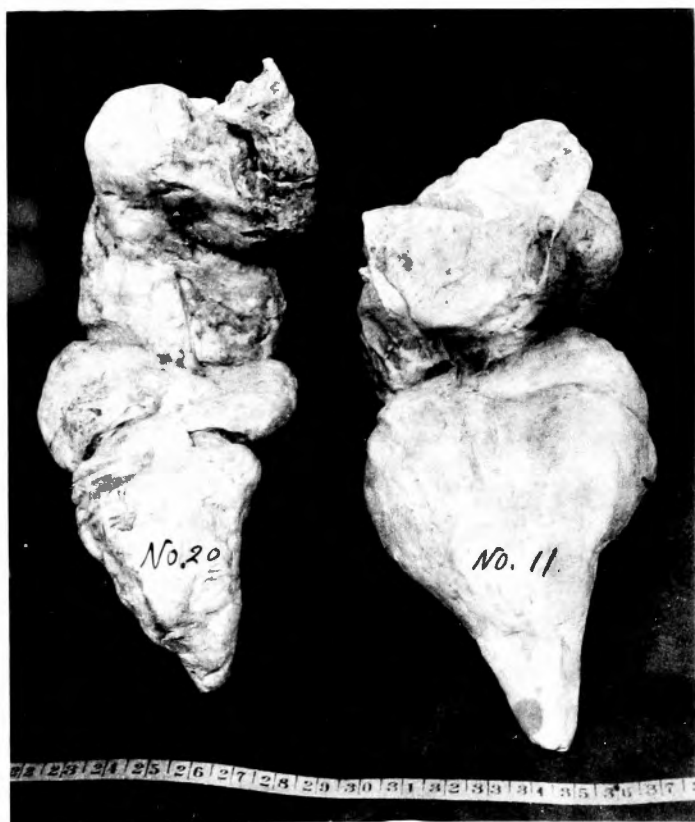


NO. 65.



第十四圖(側面)

第十五圖(側面)



第十五圖(前面)

第十四圖(前面)



第十六圖(側面)



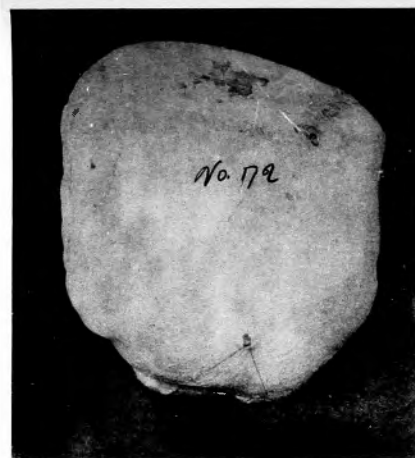
第十七圖

第十八圖

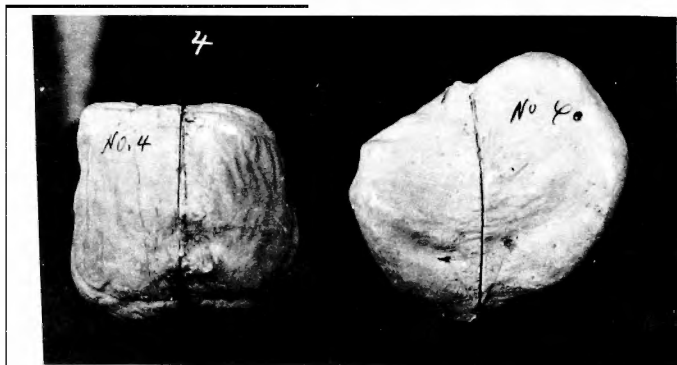
第十九圖



第二十四圖

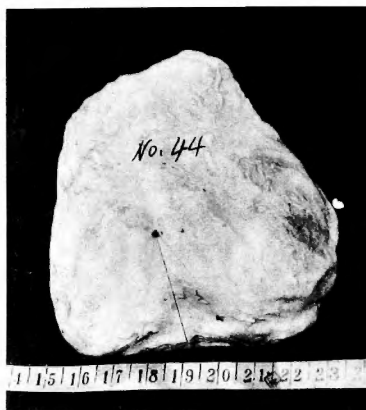


第二十五圖

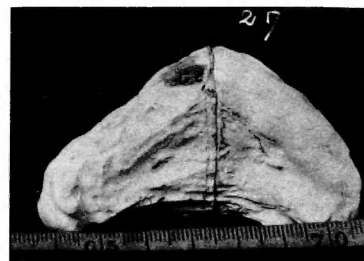


第二十圖

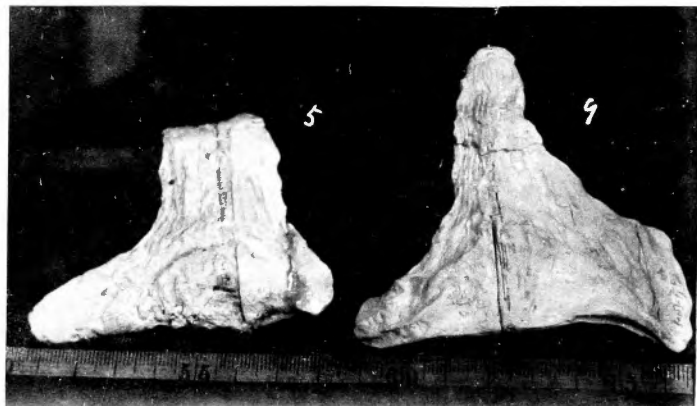
第二十一圖



第二十六圖



第二十七圖

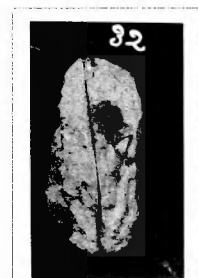


第二十二圖

第二十三圖



第二十八圖



第二十九圖